会　議　録

会議の名称		第４回　第２次つくば市緑の基本計画策定委員会		
開催日時		令和８年(2026 年) ４月 23 日(木)開会 14：00　閉会 15：45		
開催場所		つくば市役所２階　203 会議室		
事務局（担当課）		建設部公園・施設課		
出席者	委員	野中委員（委員長）、藤田委員、宮本委員、和穎委員、常國委員、田中委員、三石委員、海老根委員、山田委員		
	事務局	栗山理事、山口課長、藤井係長、関川主任、柳田主事		
公開・非公開の別		■公開　□非公開　□一部公開	傍聴者数	３名
非公開の場合はその理由				
議題		（１）計画の骨子案について （２）市民アンケート調査の集計分析結果の報告について （３）市民ワークショップ企画案について		
会議録署名人			確定年月日	年　月　日
会議次第	１　開会 ２　議事 ３　その他 ４　閉会			

１　開会

司会

定刻になりましたので、ただいまから第４回　第２次つくば市緑の基本計画

策定委員会を開会いたします。

委員の皆様にはお忙しい中、策定委員会に御出席いただきありがとうございます。

まず初めに、本日の委員出席数及び会議の公開について、事務局から報告いたします。

事務局

本日の委員会は、委員数13名のところ、９名出席しておりますので、要項第６条第３項の規定により、本日の会議が成立していることを御報告いたします。

本日の委員会については、つくば市情報公開条例第５条各号に規定する不開示情報を含まないため、つくば市附属機関の会議及び懇談会等の公開に関する条例第３条に基づき公開といたしますことを御報告いたします。

なお、傍聴される方におかれましては、配布いたしました「傍聴に関する注意事項」を御一読いただき、遵守していただきますようお願い申し上げます。

司会

それでは、以降の進行につきましては、設置要項に基づき、委員長に議長をお願いすることになっておりますので、よろしくお願いいたします。

２　議事

委員長

それでは、会議次第に基づき議事を進めて参りたいと思います。

まず１点目「計画の骨子案について」事務局から説明をお願いします。

事務局

〔事務局説明〕

委員長

ありがとうございました。

それでは、ただいま説明いただきました内容につきまして、委員の皆様から御意見・御質問などいただきたいと思います。いかがでしょうか。

委員

骨子案の基本理念・将来像の部分が「緑とともに生きるまち」と、平易な言葉で表現されており、とても良いと思いました。一般市民にも分かりやすい言葉に変えていただいてありがとうございます。

「景観形成」の基本方針である「緑豊かなゆとりあるまちづくり」について、入れてみてはどうかと思うことがあります。緑とは、樹木や草をイメージしていましたが、花も緑の中に含まれると思いました。花は人の心を癒したり、様々な健康増進効果もあります。また、今回の市民アンケートの結果では、市民が活動に協力してみたい内容として、回答の上位に「植樹や花植え」が入っていました。花が好きな方は多くいると思いますので、ここは「”花と”緑豊かなゆとりあるまちづくり」などと変えられたら良いと思いました。

委員長

ありがとうございます。この点、事務局の方からいかがでしょうか。

事務局

「花と」という表現を記載するかどうかについて、検討させていただきたいと思います。

委員長

花も含めて「緑」と表現してしまうと、どうしても「花」という要素が見過ごされやすいと思います。

委員の仰る通り、「花」というのは、彩りやうるおいを醸し出す意味があります。おそらく、個別施策の中で「花」に関する内容が含まれてくると思いますので、どの項目に「花」を入れるかというのは、少し事務局で御検討いただければと思います。

他にいかがでしょうか。

委員

今の御意見に付け加えるとすれば、漢字の「緑」とひらがなの「みどり」で

は、対象とする範囲を時々意識して使い分けることもあります。例えば、漢字の「緑」だといわゆる草木を想定しますが、ひらがなの「みどり」に書き換えるだけで、花も含め、植物以外の色々なことを包含するワードになるので、ひらがなの「みどり」と表現することも一案として考えられると思いました。

委員長

それも含めて、事務局で少し検討をしていただければと思います。

その他いかがでしょうか。全体の構成として何か御意見・御質問などありましたら、お願いします。

委員

施策に、人づくりに関する施策、リーダー養成講座、緑の重要性を普及させるような広報活動についても入れてどうでしょうか。

また、学校の緑は、教員による管理の限界を迎えていると思います。学校も公共の緑として、管理のサポートができるような言葉を入れていただけると良いと思います。よろしくお願いします。

委員長

事務局、いかがでしょうか。

事務局

市民アンケートを実施する際にも、本計画の対象となる緑として、学校の緑は明確に位置付けています。学校の緑は、今後も公共の緑の一つとして扱うものと考えています。

また、多様な主体との共同に関する施策は、個別施策検討の参考とさせていただきます。

委員長

よろしいでしょうか。体系図の個別施策については、さらに詳細な内容を、事務局から次回以降提示されるかと思います。

その他いかがでしょうか。

委員

学校の緑は、市が管理しているのでしょうか。それとも各学校が管理しているのでしょうか。つくば市の場合、桜の木をはじめ、緑が多い学校も多いと思いますが、確かに維持管理は大変だと思います。

また、緑の基本計画での位置づけがどのようになるかについて教えていただきたいと思います。

委員長

事務局からお願いします。

事務局

調査はしておりませんが、市立の学校の緑は部分的に市の教育局が関わっている場合もあると思いますが、基本的に各学校での管理、私立の学校に関しては、それぞれの学校で管理というようなイメージかと思います。

市立の学校、私立の学校いずれにおいても適切な部局、機関等との調整の上、施策に位置付けることを検討できると考えています。

委員

学校に配分される予算の中で園芸業者を雇って、古くなった危ない木から切ろうとかこの木を残そうなど、個別の学校が判断して、管理しているという理解でいいですか。

委員

基本的には、教育局が予算を確保したうえで、学校の緑の維持管理を行っていると思われます。ただその中で、全てに対応することはできませんので、PTAや保護者会、地域のボランティア活動などにより、維持管理している学校が多いと思われます。

委員

ありがとうございます。

基本理念・将来像の「緑とともにいきるまち-つくば-」については、悪くは

ないと思いますが、無難な感じだなと思いました。つくば市は、万葉集の時代から筑波研究学園都市、ＴＸ沿線開発など、新旧の両方の要素があります。古い巨木を信仰するような文化も昔からありつつ、最先端の様々な知見やテクノロジーを使っていくことの両方が大事であり、そうしないと地球温暖化や生物多様性といった問題にはなかなか全部に対応するというのはすごく難しいと思います。「いにしえ」や「テクノロジー」などの要素を入れて、つくばらしさを表現できると良いと思いました。

もう一つ、例えば東京 23 区では古い木がどんどん伐採される一方、巨木を区の文化財のような共有財産にして、保護するようになっています。つくば市では、今までは巨木はいくらでもあるということで開発を進めてきた経緯もありますが、筑波山には貴重なクスなども残されていると思います。ゼロカーボンの観点では、古い木はあまりCO_2を吸収しないのでゼロカーボンにはあまり寄与しないのですが、古い巨木を自然のシンボルとして利用するとか、保護・保全する、その場所を守るというのは生物多様性に繋がります。こういったことも計画の中で戦略的に入れていけると良いと思いました。巨木関係の保全や、何か情報は市で把握して、動きはあるのでしょうか。

委員長

事務局、お願いします。

事務局

筑波山にある「まるばくす」をはじめ、市内に文化財として指定されている巨樹等もいくつかございます。こういったものについては、引き続き、保護し、必要に応じて新たな指定していくものになると思っております。

委員

新しく文化財として指定するのは、別の課になるのでしょうか。

事務局

文化財の指定については、教育局文化財課が所管部署となります。

委員

わかりました。

そうした関係部署と連携しながら進めていく必要があると思います。

委員長

ありがとうございます。巨木とその周辺の場の保全、あるいはその周知などを含めた内容については、個別施策の詳細のところで触れていただくようお願いします。

冒頭でお話がありました将来像のフレーズについては、いろいろ御意見あるかと思いますが、なかなか決まらない部分でもあるので、もし委員の方から具体的な提案があれば積極的にお願いしたいと思います。それぞれお考えがあるなかで、皆がこれだというのは、なかなか難しいですが、意図を含めたわかりやすいフレーズにしていただければと思います。

委員

施策について、筑波山、宝篋山は書いてありますが、牛久沼についても入れていただけたら、市の南のエリアの方も愛着が湧くかと思うので、御検討いただければ嬉しいです。地域の方が牛久沼の整備などをしている団体があるので、入れていただきたいです。

巨木については、いろいろな部署が活動をしているという話がありましたが、市役所内で連携して進める、ということについても一言入れて、推進しやすいものになればよいと思います。

最後に繰り返しになりますが、学校の木は管理職の先生の御判断で、教育局に依頼を出して教育局の許可がおりたら、対応するという仕組みらしいですが、先生方は緑に関する専門知識がなく困っており、残せる木も維持管理が大変だから伐採する方向になってしまうようです。学校は防災拠点にもなりますし、学校の緑の管理については、大切さをきちんと伝えて、一緒に考えていくから

大事に守っていきましょうというように、連携しながらやっていけたら良いと思います。

委員長

ありがとうございました。

１点目の牛久沼については、つくば市域内ではないというところもあるかと思います。

また、課を跨ぐという２点目ですが、おそらくこれは公園・施設課だけではない、他の所管課が担当するものもありますので、連携が必要というものかもしれません。

これらの御意見について、事務局の方から御回答をお願いいたします。

事務局

委員長の仰るとおり、牛久沼については、水域のほとんどが龍ケ崎市になっているため、牛久沼そのものを計画に位置付けることに対しては慎重に検討しなければならないと考えています。例えば牛久沼への眺望といった観点であれば、検討できる可能性はありますので、いただいた御意見を踏まえながら検討させていただければと思います。

施策は、庁内含め関係機関・団体等と調整の上、検討していきます。

緑に専門的な知識がないことも学校の緑の保護にあたっての課題であるという御意見もございましたが、例えばマニュアルのようなものが整備されていると学校職員でも判断しやすいといった可能性も考えられます。そういったところも踏まえながら、個別施策を検討してまいります。

委員長

他いかがでしょうか。

委員

計画の骨子案について、資料１の個別政策のグリーンカーテン、屋上緑化、壁面緑化推進というゼロカーボンに関する項目ですが、発想としては緑によっ

て日陰を作って、エアコンなどの電力消費を抑えてゼロカーボンに繋げていこうという考えだと思いますが、建物の持ち主の方に対して負担となる施策だと思います。屋上緑化、壁面緑化は、地面にそのまま緑を植えているものより、管理が大変だと思いますし、グリーンカーテンも建物一つだけ緑化してもあまり意味がなく、枯れたときに廃墟感が出てしまって建物のイメージも損なうように感じますし、維持管理面でも大変ハードルが高いように感じました。グリーンカーテンなどの施策についての協力要請や支援の財源確保といったことについてはどういうお考えをお持ちでしょうか。

委員長

事務局の方からお願いします。

事務局

グリーンカーテン、屋上緑化、壁面緑化については、公共施設から始め、その後、民間企業や市民の方々の御自宅でも御協力いただけるような形になることが望ましいと考えています。御指摘いただいたように、過剰な負担になるような施策は望ましくないため、適宜インセンティブを設けるなど、詳細な検討を進めていきたいと考えています。

委員長

他によろしいでしょうか。

委員

今回いろいろ考えていますけども、グリーンインフラの効果など、何が課題なのかというのが、まだちょっと明確ではない気がしています。

最近はＤＸ化が進んでおり、例えば炭素固定量っていうものについて地図上にマッピングするなど、地図にいろんなものを落とし込んで、ヒートアイランド現象がどこで中心的に起こっているか、生物多様性はどこで行われているのかなど、緑の価値とか課題をどんどん「見える化」していくような他自治体の事例がありました。このように「見える化」することで、ここで何が足りない

のかということか、重点的に取組むのはどこかなどが分かるようになり、予算配分などいろんなことに繋がっていき、解析や根拠があることで、多くの方が納得しやすいものになるのではないかと思います。すでに計画検討の中盤に入ってはいますが、そういう解析をしたりして市の中心部だけに対応が偏らないで、いろんな地域の課題を解決していただくようになったらいいなと思います。

委員長

事務局の方からお願いします。

事務局

炭素固定を可視化した資料はありませんが、地表面温度を可視化した資料については、第２回委員会資料のうち参考資料２で御提示するなど、つくば市の緑の状況・課題については様々整理して、御議論いただいたものと認識しております。これまで分析等してきた現況・課題を踏まえた計画策定を進めてまいりたいと考えています。

御指摘のような現況・課題の可視化については、計画検討過程で実施するのか、計画策定後の施策として実施するのかなど、実現可能性なども踏まえて検討してまいります。

委員長

生物多様性については、生物多様性つくば戦略において専門的な議論がなされていますので、必要に応じて緑の基本計画にも反映をお願いしたいと思います。

委員

個別施策に「ウェルネスネットワークの緑化」という言葉がありますが、具体的にイメージができなかったので、どういうものであるかを確認したいです。

また、先ほど教育に関する話の中でも話題に出ていましたが、PTA は地域に関わる活動として、かなり多くの取組みを行っていると思います。私自身も、子どもが小さい頃に PTA に参加しており、校庭の雑草の管理や花の植え付けと

いった活動を行っていました。また、PTA 活動の中で、外部から講師を招いて講習を行うといった取組みもありますが、そのような場において、例えば樹木医を招くことで、教職員や活動に関わる方々への教育につなげることができれば、先ほど話題に出ていた「どう扱ったらよいかわからない」といった課題の解決にもつながるのではないかと感じました。こちらについてはコメントになります。

委員長

事務局の方からお願いします。

事務局

ウェルネスネットワークについて、言葉の定義は検討中です。例えば、つくばりんりんロードなどにおいて緑を感じながら運動していただくことにより、緑が有する健康や福祉、すなわちウェルネスに良い影響を与えるという機能を活かしたり、そういった機能が活かせる緑がネットワーク化している状態を形成するような施策案です。冒頭申し上げましたとおり個別施策については、今後検討していくことになりますので、次回以降の委員会において改めて御提示したいと思います。

委員

一般に周知されている、きちんとした用語であるのであれば良いと思いますが、もし新しく造語的に使うのであれば、その点はきちんと用語を定義して使った方が良いのではないかと思いました。

事務局

計画書に記載する際には用語の定義を精査した上で、記載したいと思います。

委員長

よろしいでしょうか。先に進めさせていただきます。

それでは続きまして、「市民アンケート調査の集計分析結果の報告について」、事務局のほうからご説明をお願いします。

〔事務局説明〕

委員長

説明のあった内容について、委員の方々から御質問等ありますでしょうか。

市民アンケート調査の結果では、意識の高い方が回答しているようで、クラウドファンディングや資金提供といったことでの貢献も大事であるということです。

委員

重要と考える緑の機能に関する回答において、ゼロカーボンを重要視している結果が出たことに驚いています。これがつくば市の傾向なのか、全国的な傾向なのか気になるところですが、気候変動を肌身に感じるようになってきている表れだと思いました。重要と考える緑の機能について、景観形成、防災・減災、ゼロカーボンが高いことは、今後の参考になると思いました。

施策実施にあたっては、実施のしやすさ、予算、マンパワーなどにより、優先順位が付けられることと思います。優先順位をどうしていくかは非常に難しい問題ですので、アンケートはとても大事だと思います。

次の議題である「市民ワークショップ企画案について」は、今後のタウンミーティング的なものとして、とても大事になってくると思いました。

このアンケートを基に優先順位のようなものを把握し、施策を実施する際、どんな形で進めることになるのでしょうか。

委員長

事務局からお願いします。

事務局

現時点では施策に明確な優先順位をつける予定はございません。新計画では、いずれかの緑の機能に焦点を当てて施策を進める、ということではなく、基本的にはどの機能も重要であるという前提のもと、適材適所に活躍していくことが重要であると考えています。個別施策の中で優先順位をつける必要があれば、

適宜検討します。

委員

関係する部局等との調整が必要など、優先順位をアンケートの意見のみをもって優先していく訳にもいかないということもあるかと思います。

一方で、例えば生物多様性やゼロカーボンなど、複数の機能が両立しないということも考えられると思います。具体的には、花壇に花を植えるために、炭やピートモスといった土をどこからか買ってくると仮定すると、スウェーデンなど遠方から輸入されているものを使うことが多いと思うので、遠方から炭素を持ち込んでいるという視点で見ると、ゼロカーボン的にはむしろマイナス、という考え方もあります。一方、ゼロカーボンのことだけ考えると、本当に豊かさを実感するとか、市民が本当に感じるものとは違ってしまう可能性もあります。どちらが優先されるべきかということについては難しい問題で、明確な答えはなく、どうするべきという意見でもありませんが、だからこそアンケートは大事だと思います。

委員長

おそらく施策の中でも、制度や仕組み、環境を整えるものと予算をつけて実行していくものと様々あるかと思います。その辺りは、次回以降に御意見いただければと思います。

委員

アンケートに回答された方々は、緑が好きだけれど維持していくのは難しい、と思っている方が多いように思いました。そのため、この計画では維持していくためにはどうしたらいいか、ということを重点的に計画に盛り込んでいけたら良いと思いました。

また、協力したい人に対して、どの程度のレベルで協力したいかという回答結果が出ていると考えていて、直接労働力を提供するという「ガチ参加」できる人、見守りとか比較的軽度な取組みをやってもいいという「ユル参加」でき

る人、完全に外から「支援」する人に分かれていると思います。今後の個別施策を考える時には、「ガチ参加」、「ユル参加」、「支援」という３パターンのターゲット層に当てはまるような施策を考えていけると良いと思いました。コメントでした。

委員長

仰るとおり、市民の参加意向に段階があり、それぞれに一定数の方がいることが分かったので、この計画ができることによって、市民へのフィードバックや情報提供がなされ、それぞれ段階ごとの関わり方が広げていければ良いと思います。

委員

アンケートの説明から、皆さんがいろいろな方向で関心を持っていらっしゃることがよくわかりました。緑には暑さを和らげることができる、というような、日頃気づきやすく、実感しやすい緑の効果があるとすれば、それを何か「見える化」できると、より積極的な関わりを増やせるのではないか、と思いました。

計画の４章において定量的な目標や質などに関する指標が出されるものと思っています。計画全体としての「見える化」だけでなく、個々の市民の身の回りでちょっと頑張ったらこんなに良くなったというようなことも示せればと思います。

近年は暑さも災害の域に入っているのではないかと思いますが、庭をコンクリートではなく、緑に変えたらこれだけ暑さ対策、防災・減災になったというようなことが分かる方法があれば、それを示すことが、個々の環境の改善に繋がるのではないかと思います。その個々の改善の積み重ねが市全体としての効果につながると良いと思います。

委員長

ありがとうございます。これについて何か事務局からご説明ありますか。

事務局

指標についてはこれから検討していきますが、数値化するとわかりやすいものは定量的な指標を設定したいと考えておりますし、数値化できないものについても、市民の方が分かりやすいような提示の仕方を検討したいと考えています。

緑の機能を可視化することについては大学・研究所をはじめとした関係機関との連携の中で、実現可能性も含め検討したいと考えています。

委員長

よろしいでしょうか。

委員

困っていることや取り組んでよかったことについて、その後どのように課題解決したか、改善したかについて、計画策定後もフォローアップやモニタリングしていくことは検討されているのでしょうか。

委員長

事務局からお願いします。

事務局

現時点では、フォローアップやモニタリングなどについて明確な予定はありません。個別の施策の中で検討していきたいと考えています。

委員長

その他いかがでしょうか。お願いします。

委員

緑の機能の見える化や暑さ対策の話も出ましたが、とても大事で、市民も納得できる観点だと思います。

先程、ヒートアイランド現象などデータは一定程度ある、と言われたことについてですが、どの程度の解像度でデータがあるのかを知りたいです。また、緑がどれ位、どこにあるかについて、情報が入手できるでしょうか。

衛星写真などを使えば数値化ができるはずですし、そうすると、学園地区やＴＸ沿線が以前に比べて何割減っているとか、それをもう少し増やそうといったことも考えられると思います。

庭を持っていて木を管理している人たちは、落ち葉への対応、樹木剪定に費用が掛かるため、それを全部自分で賄うとなると、木を切りたくなる人も多くなると思います。緑は公共的な重要性がたくさんあるので、公共財産的な扱いとして、うまくやれる方法がある良いと思いました。その辺りはいかがでしょう。

委員長

事務局からお願いいたします。

事務局

地表面温度につきましては、衛星画像の熱赤外 PAN 度から分析したデータがございます。第２回委員会資料の参考資料２にて御提示しましたが、基本的に山林や河川周辺といった緑があるところの地表面温度が低い傾向でした。市街地の中でも公園など緑があるところは比較的地表面温度が低い傾向である、という結果が出ております。

緑の量については、現行計画では都市計画基礎調査の土地利用現況をもとに評価しており、令和４年度の都市計画基礎調査の時点で緑地率 59.9%という結果が出ております。緑被率においても衛星画像をもとに分析を実施しており、都市計画基礎調査で集計した緑被率よりは高い結果が出ています。緑被率については、次回以降の委員会で改めて御報告したいと考えています。

委員

そのようなデータがあるのであれば、画像の解像度にもよりますが、緑被率とヒートアイランドの地表面温度上昇がどれ位相関しているのか、なども検討できるのではないかと思います。

データを基にした施策であれば、誰も文句を言わないし、とても分かりやす

くなると思います。逆に、ＴＸ沿線に住んで間もない人は、散歩できるところさえあれば良いといった様に見えますが、緑が少なくヒートアイランド化が進行すれば、それで本当に良いのか、やはり緑を増やして欲しいという可能性もあります。そのためにも、データを整理して見えるようにしておくことが大事だと思います。

極端な話になるかもしれませんが、例えば、木を切る・切らないはもちろん所有権があるので自由ですが、本当は維持したいけれどやはり管理が大変というような、庭木を持っている人に対して、市で税制優遇や少し補助を出すなど、そのようなことは考えておられるでしょうか。

事務局

補助金として実施するかなど、どのような形で施策化するかについては検討が必要ですが、何かしらのインセンティブがあればよいのではないかと考えています。

委員長

戸建て住宅の方には、市では生垣の設置に関する補助がありますね。意外と知らなかったということもあるので、その辺りを含めて、インセンティブ的なことを、施策のどこかで分かりやすく提示できれば良いと思います。

委員

市民のサポートという観点について、身近な方々の話を参考までに共有したいと思います。私が住んでいる地区は、一戸建てで庭があるので、それぞれで庭を管理し、ホームセンターで買ってきた同じような草刈り機を近所の方もそれぞれ持っています。庭の手入れには様々な器材購入が必要で、みんな同じように持っているものの、たまにしか使わないので、みんなでシェアして使えるような仕組みがあったら良いです。引っ越したばかりであったり、自治会もなかったりもするので、草刈り機を市で購入し、交流センターなどで貸し出しする仕組みがあったら良い、という話になりました。参考にしていただけたらと

思います。

委員長

貴重な御意見かと思いますので、施策の詳細な検討の時に、参考にしていただきたいと思います。

委員

今の話に関連して、自治会や PTA がどんどんなくなってきているので、今まで、何らかの活動を担ってくれていた力がなくなってきています。20 年後はもっと減ると思いますので、市民の協力は大事です。そのような時に、インセンティブとして補助制度などがあると良いです。市民や企業にも、様々なところにインセンティブを付けていって、みんなで実現できれば良いと思います。

また、市が言うことではないかもしれませんが、活動に対し、「頑張ってくれているね、ありがとう」、といったことが「見える化」できると、少しやる気になると思います。

アンケートについて、市民に対しては実施されていますが、企業や研究所も調査した方が良いのではないか、と思いました。

先程、委員の話でいろんなものを地図上に可視化する話に関連して、雨水浸透や貯留についても分析されていないところがあるかと思います。市内には実際に洪水が起こっている地域があり、この課題解決には緑の力は結構役立っていると思うので、これを「見える化」するとか、弱点を確認することも出来たらいいな、と思いました。

そのほか、樹木・草花相談もあると良いです。

委員長

事務局お願いします。

事務局

これまでは、活動に参加していただいた方がその後も活動を継続していくことを前提とした制度設計が多かったと考えています。御指摘のとおり。こうい

った担い手が減っていることもありますので、関わっていただく人についても入れ替わって取組みが継続されていく、更新の観点が必要だと考えています。個別施策で検討したいと思います。

洪水の問題には様々な要因が関係しており、例えば、洪水の発生地点は手系的に標高が低いことや、地下水位が高いことなどの要素が複合して発生していることなどが考えられ、雨水浸透や貯留効果が向上し、課題解決に寄与するということができれば良いのではないかと考えています。

委員長

委員お願いします。

委員

可視化に関連してコメントです。都市部の緑ではなく、森がまとまってあるような山村地域で活用できる考え方になりますが、例えば、木材を生産する機能、景観、山地災害防止といった地滑り抑制、水の貯留機能のような森林が有する機能を定量化する研究が行われています。農地の方も同じで、貯留機能、生物多様性といったことを面的に研究されていると思います。

ですが、実際のところ樹種や樹齢など様々な条件によってもその機能が変わってきます。ある程度面積があってメジャーな樹種等については知見が出てきていると思いますが、例えば、つくば市の中の緑地にあるようなシラカシ、トウカエデといった樹種については知見が少ないため細かな可視化は難しいと思いました。

私の専門外ではありますが、都市の中の樹木の機能を図る i-Tree というツールのようなものがあります。研究知見も出てきているので、そういったことも参考になるかもしれません。筑波大の先生方もたくさんおり、こういったことも御存知かも知れないので、聞いてみるのも良いと思います。

市民アンケートで緑の機能のうち重要と考えるものの結果において、特に、健康増進・子育てで 30 代が突出してるということがありました。今回のワーク

ショップでなくて良いと思いますが、いろいろなイベントで人を呼び込む時、この観点を活用していくと良いのではないか、と思いました。

委員長

貴重な御意見ありがとうございました。よろしいでしょうか。

アンケート調査回答率37.5%というのは高いほうであると思います。こういった調査では、他の自治体ですと回収率10%程度ということもあるので、それだけ、つくば市民の関心の高さが伺えます。

それでは、続いて「市民ワークショップの企画案」、事務局から説明をお願いします。

〔事務局説明〕

委員長

ありがとうございました。4箇所でワークショップを行うということですね。それでは、説明について委員の皆様から御質問または御意見をいただければと思います。

委員

学園地区のテーマ例に「計画的かつ効率的に樹木などの緑を維持・管理」とあります。これは管理する側からの目線の言葉だと思いますが、市民側からどのような答えが出てくると期待しているのか、イメージしているものがあればお伺いしたいです。

もう一つ、街路樹が強剪定され、景観や緑陰の観点からどうなのかといった話をいろいろな方から伺います。街路樹の話もどこかで聞いていただけたらと思います。

委員長

これについて、事務局の方からお願いします。

事務局

行政側からの視点だけでは、行政と参加者の相互理解も薄まってしまうと考えています。

学園地区では、実際にペデストリアンデッキの上の樹木を見ていただくことで、植樹からかなり年数も経ち、今後、維持管理をしていく上で課題が出てくると想定される樹木等の効率的な管理の仕方を一緒に議論し、提案いただくことを想定しています。

委員

「効率的」ということについて、具体的に説明していただけますか。

事務局

管理に要する費用の観点を踏まえると、全ての地区で一律に管理していくよりも、維持管理の実施方法等を場所ごとに調整したり、集中して管理を行うなど、効果的に管理していく方法を検討する余地があると考えております。こういったことについても市民の方を交えて一緒に話をしていけたら良い、と考えているところです。

委員

理解出来ました。ありがとうございます。

事務局

補足します。効率的という言葉に違和感があったのではないかと思います。

先程、街路樹の強剪定についても御意見をいただきましたが、道路本来の機能としては安全かつ円滑な交通の確保ということもあり、道路管理部門としては、街路樹の適正な管理として安全・安心を第一に考え、樹木を強剪定せざるを得ない状況になっているところもございます。その上で緑の大切さもありますので、このような観点をどうしたら良いかということについて、お話を聞ければと思っています。

委員

はい、理解できました。その辺りのことが市民にわかると良いと思います。

その上で、市民の希望があったら、このエリアだったら、緑の機能性を少し高めるために、いつもと違う管理を入れて良い、といったことがワークショップで引き出せたら良いと思います。重点的にここをやってみようとか、モデル事業として 1 区画をやってみようとか。大々的に全部やると大変なことになるので、そういう対話を行って、お互いが歩み寄れたら、良いワークショップになると思いました。

委員長

ありがとうございました。他いかがでしょうか。

委員

どのワークショップもとても聞いてみたい、と思いました。

参加者が議論する時の材料があると話しやすいと思います。例えば、「緑の量を確保するには」とありますが、量についてはどのように話をすれば良いのかわかりづらく、曖昧な話しか出せないところがあるかと思います。適当な量が欲しいと言っても、適当な量がどのような状態かわからないところがあると思うので、イラストを書くなど、ちょっとイメージしやすいものがあれば良いのではないかな、と思います。

委員長

おそらく、それぞれのワークショップで進行役となるファシリテーターの力量にもかかっているかと思います。来られる方々には、あまり専門用語や漢字ではなく、ひらがななど平易な言葉を中心として、具体的にイメージを示しながら、進行していただくことが大事と思いました。

委員

そういう意味では確かに抽象的なところが多いと思います。予算的にも対応できることは限られていると思うので、例えば、プランＡ、プランＢ、プランＣと提示して、この中でどれが良いですか、と皆さんにも考えてもらう、といった進め方もありそうです。花が綺麗なのが良い、ということならコブシを植

えましょうとか、やっぱり安全が大事だから倒木しないように更新しなければならないとか、枝打ちは毎年必要とか。それよりも日陰とか生物多様性を考えるなら、もう少し枝が大きくなる木の方が良いとか。

どれもトレードオフがあるから非常に難しいですよね。それを行政が一方的に決めると、不満を言う人はやはり出てきます。おそらく緑に対して意識が高く興味がある方が参加すると思うので、具体的なロールプレイングのような、これで決まりではないけれども、こういうオプションの時にどちらを選びますか、というように一緒に考えてもらうやり方は、議論が進むと思います。

委員長

ありがとうございました。

委員

今回のワークショップでは、何を目的にしているのかについてお聞きします。全体的な方針を皆さんに議論いただくことが大事なのか、アンケートの結果から分析した個人が関われるようなことが何かを具体化し、計画に反映することを目的にするのでしょうか。

委員長

事務局の方からお願いします。

事務局

今回のワークショップでは、全体的な方針を決めるということではなく、個別の課題等を提示し、課題に対する具体的な意見出しをしていただくことを目的としています。

委員長

よろしいでしょうか。

委員

他の自治体のアンケートで 1,000 円お金を渡されたら、何にいくら使うというようなアンケートをとり、それによって取組の優先順位が見える化ができた、

という事例があります。今回のワークショップでも、例えば、参加者各々が 1,000 円持ったら何をするかを考え、チームを作ったり、そこで補えないものは自分たちがボランティアで対応するなど、どんなことがあるかを話し合って、意見を出していくのも良いかと思いました。

委員長

ありがとうございます。ワークショップ企画の際に参考にしていただければと思います。

他によろしいでしょうか。

委員

田園地区(北)ではフィールドワークがない理由を確認させてください。

事務局

田園地区（北）については、開催場所付近でフィールドワークを行うのに適した場所がなく、他の３地区とバリエーションを分ける意味も込めて、あえてフィールドワークの場を設定せず、具体的な議論の時間を長く取ることで、この地区個別の課題ではない、別の議論を充実する場にしたいと考えています。

委員

ありがとうございます、理解しました。外に出た方が開放的な気持ちになり、活発な議論につながりやすいと思ったので、伺いました。ワークショップを行う際の周知にあたっては、平易な言葉を使っていただきたいと思います。資料に書いてあるテーマ例は、外にだすものではないと思いますが、気をつけていただきたいと思いました。

また、ワークショップの企画の中に、入れられるのであれば、今回のアンケートから維持管理に困っている方が多いことが読み取れますので、草刈りをしたくなる仕組みなどのアイディアがないか、聞いてもらえたらと思います。

また、自分が緑の活動に参加できるかできないかという点があったと思いますが、参加できる人と、できないけどちょっとした支援だったらできるという

人とを、グループ分けして議論してもらうと、なぜ参加できないか、という課題も浮かび上がってくると思います。企画に反映できるようでしたら検討していただきたいと思います。

事務局

丁寧な言葉遣いで、わかりやすさというところが重要な点になってくると思いますので、周知の際、参考にさせていただきたいと思います。

また、企画内容に関する具体的な御提案についても、有意義なアイディアかと思いますので、今後企画を検討する際の参考にさせていただきます。

委員長

よろしいでしょうか。

それでは、以上で本日予定した議事はすべてここで終了となりますけども、委員の皆様から全体を通して何かありますでしょうか。

委員

基本理念・将来像について、例えば、「いにしえから未来へ　緑をつなぐまち」はどうでしょうか。いにしえって何なのか、となるかもしれませんが、古いものも大事にしつつ、何か新しく、未来へ、というイメージで思い付きました。

「いにしえから未来へ」だけでも良いかもしれませんが、提示されているものと同じような形にするなら、「いにしえから未来へ　緑をつなぐまち」。ちょっと長いですので、たたき台としての提案です。

委員長

ありがとうございます。事務局の方で、これを含めて検討ください。よろしくお願いします。

委員

私も具体案を考えてみました。

一つ目が、「自然とともに未来を育てるまち　つくば」。あえて緑という言

葉を外してみました。

二つ目は、つくばは科学のまちなので、その要素を強めに出すとイメージで、「知と緑をつなぐまち　つくば」。

話は変わり、新しい緑の基本計画はとても素晴らしいものになると思っています。現行計画は計画冊子の配布等は行っておらず、市役所窓口に置くなどして閲覧していただく、というスタンスであったと聞きました。今回、私達が考えている計画は、未来へずっと続くものなので、市役所だけの力でこの計画は達成できないので、この計画を市民の皆さんにも理解してもらう必要があると思います。先程、広報・周知も大事という御意見もあったと思うので、緑の基本計画を市民の皆さんに共有して知っていただくような仕組みがあれば良いと思いました。

つくば市の公式アプリもありますが、既存のプラットフォームやＳＮＳなど、いろいろあると思うので、その辺を使って、わかりやすく平易な言葉で、この計画をみんなに伝えるような仕組みがあったらいいなと思いました。よろしくお願いします。

委員長

ありがとうございます。出来た後のことも想定して検討されているかと思いますが、策定後の計画の周知の方法など、考えていることがあれば事務局のほうからお願いします。

事務局

現時点で具体的に決まっているものはありませんが、現行計画に関しては、つくば市役所のホームページにてデータで公開しています。また、窓口で閲覧できる状況です。

計画書を印刷して配布することについては令和８年１月１日現在のつくば市の世帯数が 12 万世帯程度であることを勘案すると、全世帯に各１部配布することは、現実的ではないと考えています。

委員長

よろしくお願いします。

委員

ワークショップの際に是非やっていただきたいことがあります。市役所が実施するワークショップでは緑に困った話に焦点が当てられるケースが多いと思います。話題が課題や苦情といった方向に行き始めると、そのような話ばかりになる可能性があるので、ワークショップの中で適切に話題の軌道修正をして、緑の良い面に関する発言も聞いてもらいたいと思います。

緑に関する問題を解決するだけではなく、現在ある良い緑をどう継続していくか、どう保全していくか、ということを両輪として考えていただけたら嬉しいです。

委員長

ありがとうございます。

事務局

御指摘のとおり、ネガティブな側面ばかりに焦点を当ててしまうとネガティブなワークショップになってしまう可能性もあるので、ポジティブな、将来に残していきたい緑は何か、といった話題もバランスを見て入れていきたいと思います。

委員長

よろしいでしょうか。それでは、進行を事務局の方にお返しいたします。

３　その他

司会

委員の皆様におかれましては貴重な御意見いただきまして、ありがとうございました。

次回の会議の開催は、7 月中旬頃を予定しております。詳細が決まり次第、

追って日程調整の御連絡をさせていただきますので、御協力の程よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、第４回第２次つくば市みどりの基本計画策定委員会を閉会いたします。貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。

４　閉会

第４回　第２次つくば市緑の基本計画策定委員会

次　　第

日　時　　令和８年（2026 年）４月 23 日（木）14 時から
場　所　　つくば市役所　２階　203 会議室

１　開　　会

２　議　　事

（１） 計画の骨子案について　　・・・・・資料１

（２） 市民アンケート調査の集計分析結果の報告について　　・・・・・資料２

（３） 市民ワークショップ企画案について　　・・・・・資料３

３　そ の 他

４　閉　　会

配布資料

次第
【資料１】計画の骨子案について
【資料２】市民アンケート調査の集計分析結果について
【資料３】市民ワークショップ企画案について

計画の骨子案について

資料１

○新計画の構成案

①計画の概要

・計画の目的　・計画の役割と位置づけ　・対象とする緑
・７つの機能　・計画の推進主体　・計画期間
・計画の対象区域

②本市の概況、緑の現況・課題

・市の沿革　・位置と地勢　・都市の概況
・都市計画（地区計画等緑地に絡むもの、開発状況含む）
・その他のつくば市の特徴
（スーパーサイエンスシティ、スマートシティ、
脱炭素先行地域、自然共生サイトなど）
・現行計画の目標水準達成状況　・緑被
・公園、緑地の現況　・その他緑地等の状況
・緑に関する市民意識、意向　・機能別の現況、課題
・地区別の現況、課題

③緑を取り巻く状況・新たな視点

・世界的な取組　・国、県の施策の方向性

④緑の将来像、目標及び方針

・将来像　・基本方針
・緑地の配置方針（緑化重点地区の設定含む）
・指標　・施策体系

⑤施策

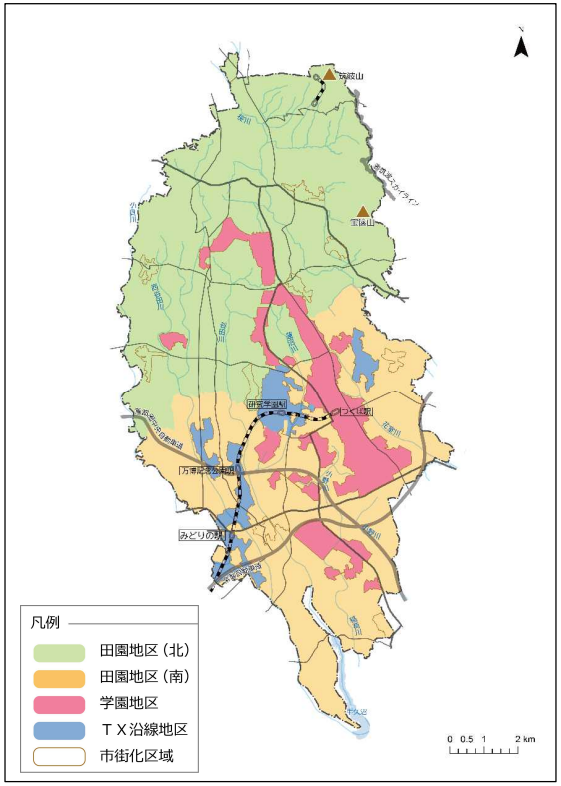
・個別施策
・都市公園の整備目標、整備方針及び管理方針
・特別緑地保全地区内の緑地の保全に関する事項

⑥地区別計画

・田園地区（北）の方針、施策
・田園地区（南）の方針、施策
・学園地区の方針、施策
・ＴＸ沿線地区の方針、施策
（緑化重点地区における緑化の推進に関する事項）

⑦資料

○骨子案に盛込む要素整理



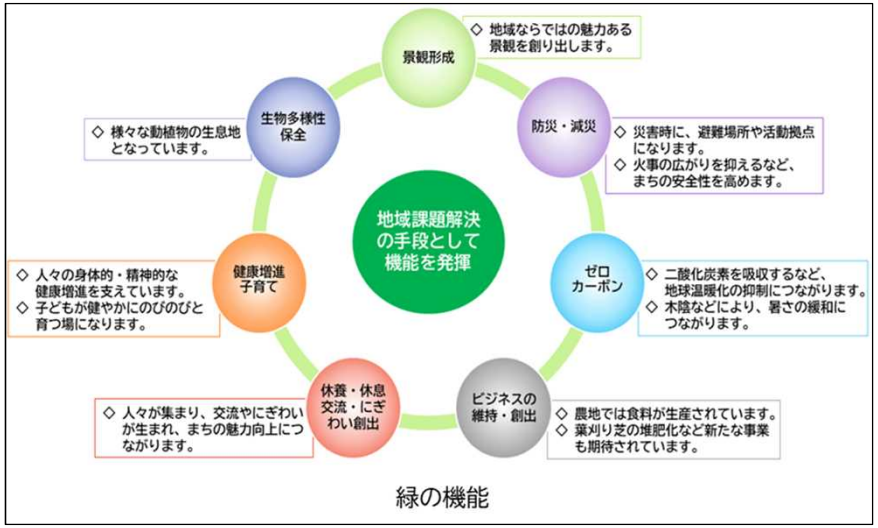
世界的な取組み、国・県の施策の方向性

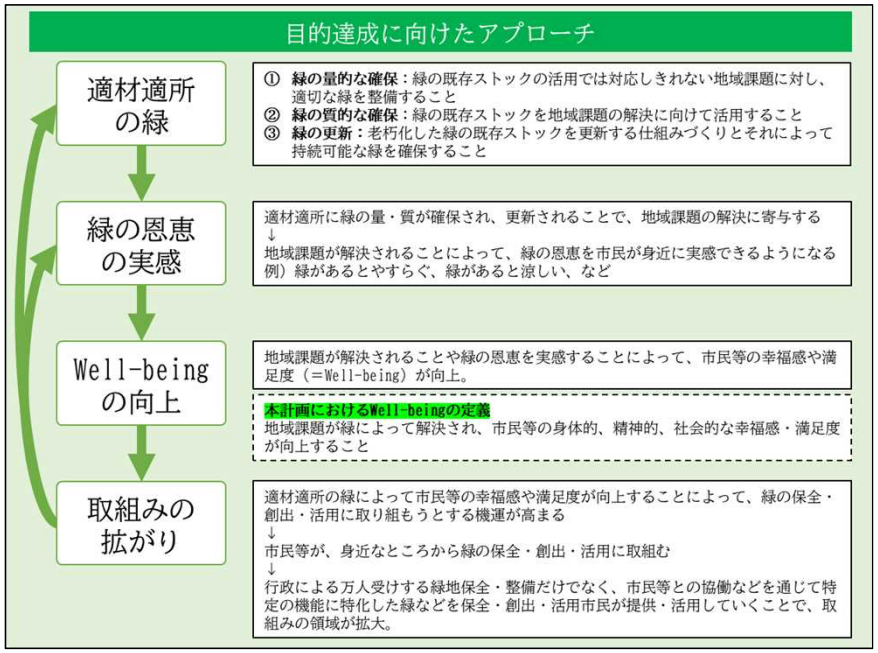
以下に関する事項の整理
- Nature based Solutions
- グリーンインフラ
- まちづくりＧＸ
- 生物多様性
- ネイチャーポジティブ
- 30by30
- SDGs
- 地域循環共生圏
- 都市公園法改正による緑地の重要性向上
- 緑の基本方針（国）
- カーボンニュートラル
- well-being

多様な主体との連携

- 市民
- 大学・研究所
- 企業
- 行政



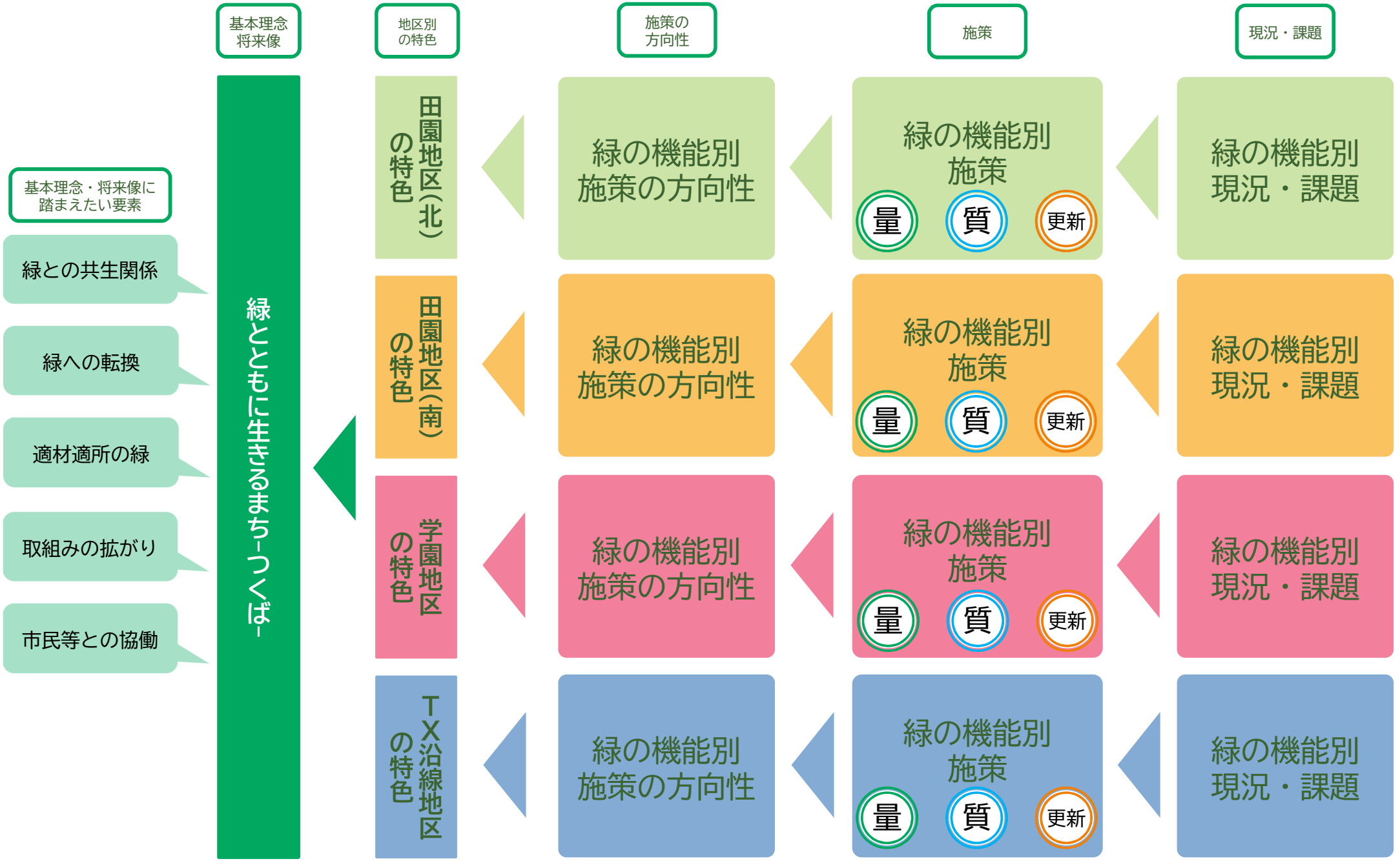




計画の骨子案について

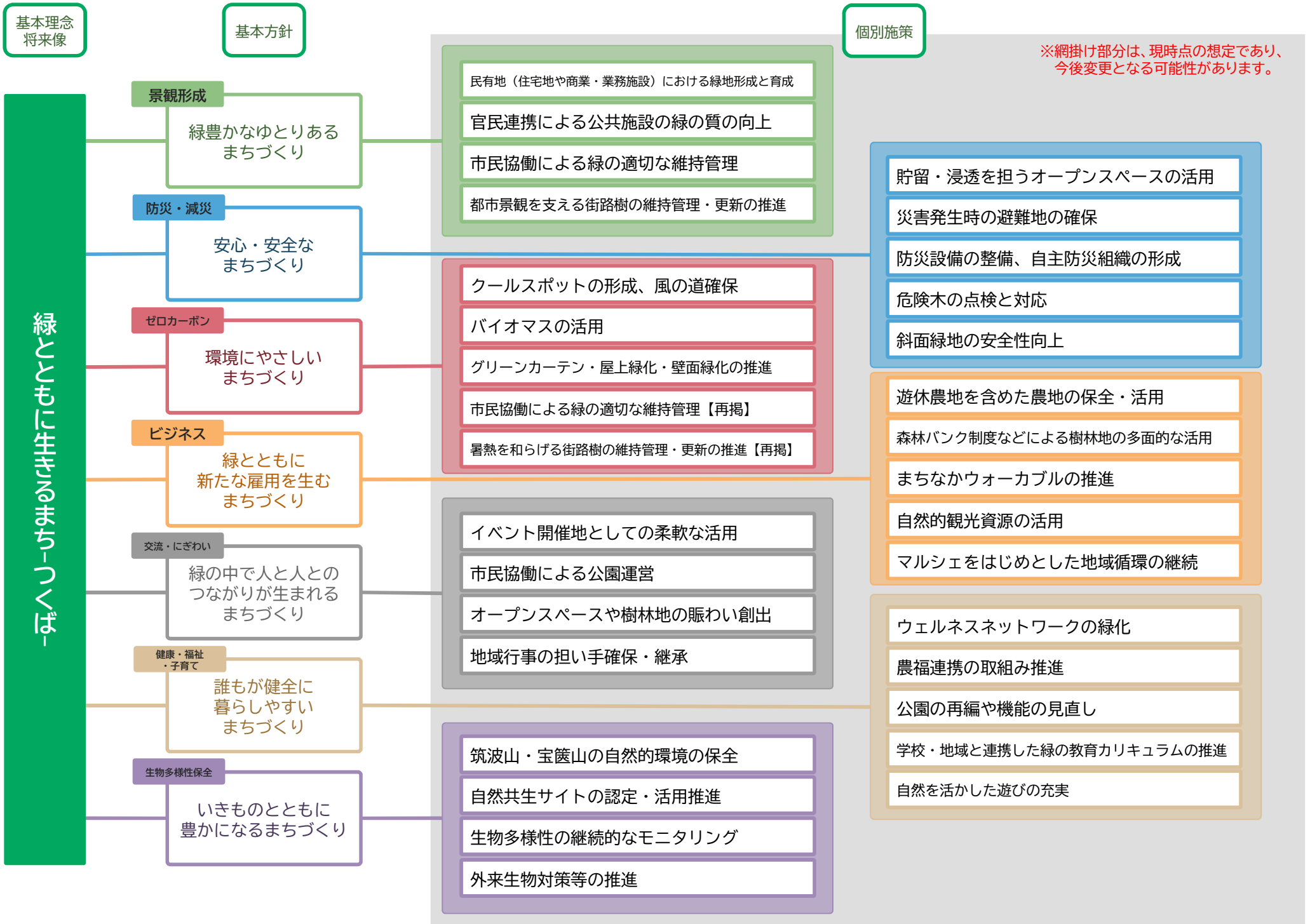
資料１

〇基本理念・将来像の整理（概念図）



計画の骨子案について

資料１



市民アンケート調査の集計分析結果について

資料２

○調査概要

調査対象	18歳以上の市民（無作為抽出）				
調査期間	令和７年12月10日～12月24日（２週間）				
調査方法	郵送による配布、郵送・WEBによる回収				
配布数	3,000	回収数	1,126 （紙回答529・ WEB回答597）	回収率	37.5%

○回答者属性

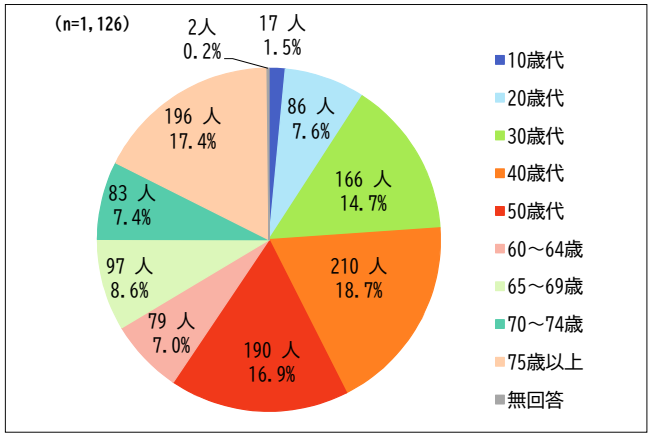


図１　回答者年齢構成（問１）

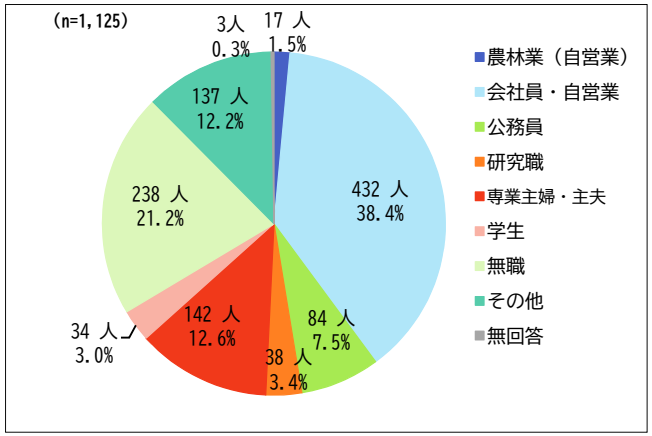


図２　回答者職業構成（問２）

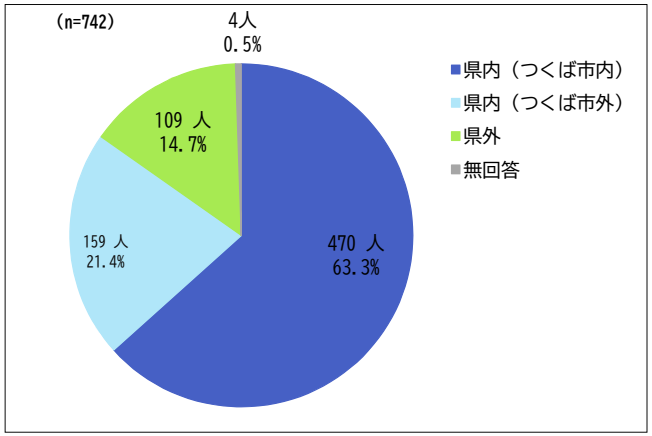


図３　回答者通勤・通学先構成（問３）

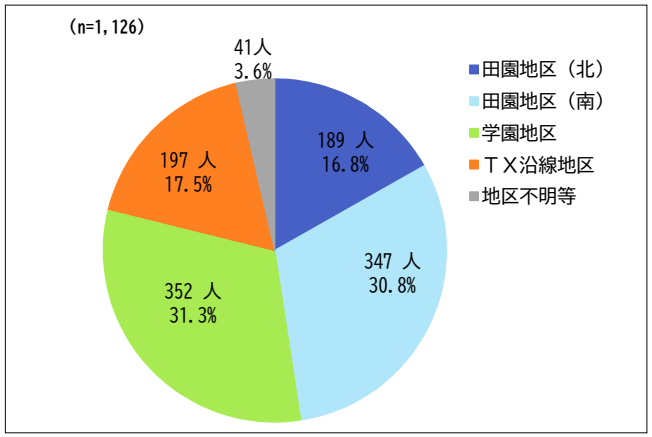


図４　回答者居住地構成（問４）

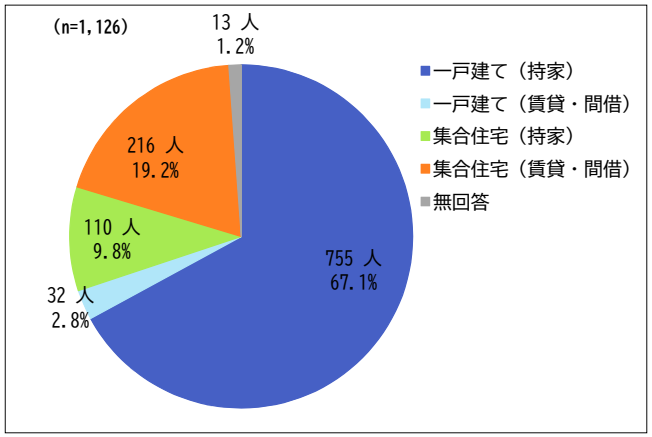


図５　回答者居住形態構成（問５）

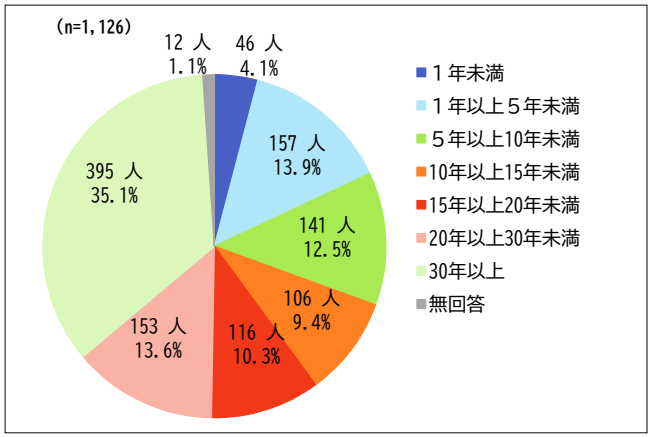


図６　回答者居住期間構成（問６）

市民アンケート調査の集計分析結果について

資料２

○身近な緑の魅力（問７）

【単純集計】
- 複数回答では多くの方が「景観が美しい」や「散歩や運動ができる」、「リラックスできる」「自然観察が楽しめる」を緑の魅力と感じている一方、「交流の場として活用できる」や「災害時の避難場所になる」、「暑さを和らげることができる」については回答率が低い傾向にある。
- 単一回答においてもおおむね同様の傾向にある。

【クロス集計】
①年齢別回答傾向の分析
- 「散歩や運動ができる」については20歳代で最も回答率が高く、高齢になるほど回答率が低い傾向にある。
- 「暑さを和らげることができる」については20歳代で最も回答率が低く、高齢になるほど回答率が高い傾向にある。

②居住地別回答傾向の分析
- 単一回答では、田園地区（北）で「景観が美しい」（24.0%）、田園地区（南）、学園地区、ＴＸ沿線地区で「散歩や運動ができる」（それぞれ23.4%、29.8%、32.1%）が最も回答率が高い。

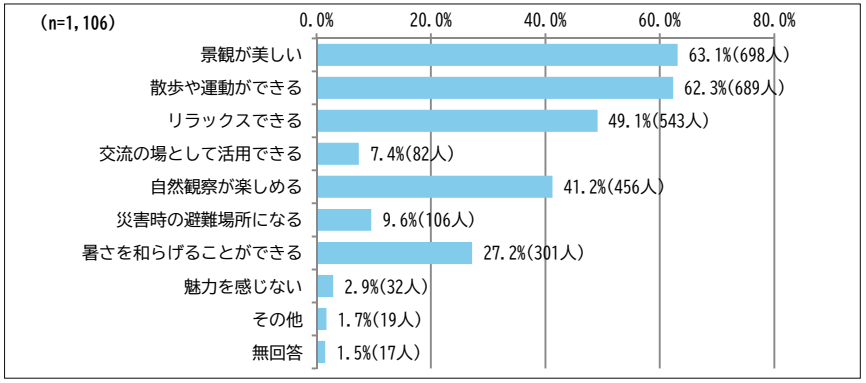


図７　魅力に感じている点（単純集計）

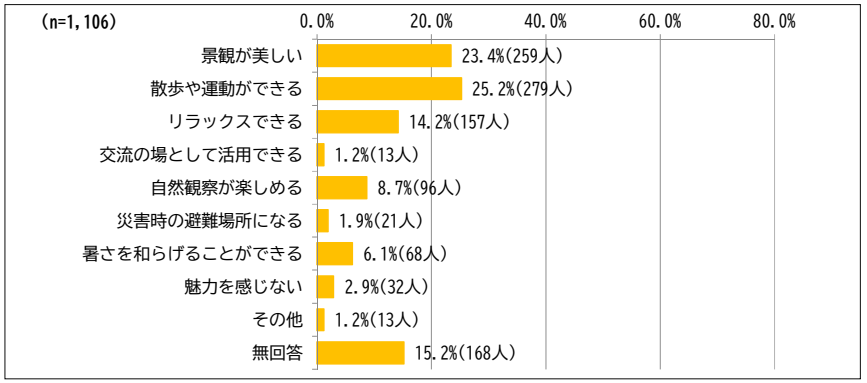


図８　最も魅力に感じている点（単純集計）

考察

- 日頃実感しやすい緑の魅力について、回答率が高くなる傾向。
- 年齢に応じたニーズも実感しやすい魅力に影響。
- 緑の持つ機能が十分に発揮されることで、その恩恵が市民にとって実感しやすい環境を形成する取組みが求められる。
- 緑の魅力を市民が実感できる状態を目指すためには、施策の実施にあたりどのようなニーズを持つ層をターゲットとして設定するのか吟味し、戦略的に施策を展開する必要がある。
- 最も魅力に感じる点について、田園地区（北）では「景観」、その他の地区では「散歩や運動」が最も回答率が高い。傾向差が生じた要因の特定は困難であるが、田園地区（北）と田園地区（南）ではニーズが異なることが伺える。

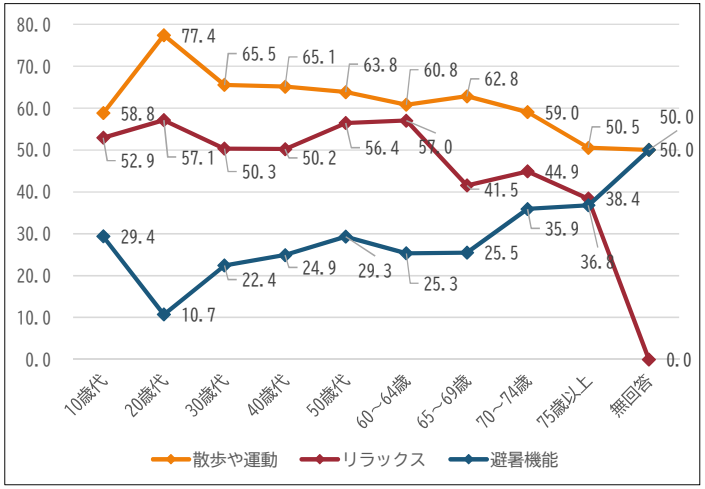


図９　年齢別魅力に感じている点
（要点抜粋）

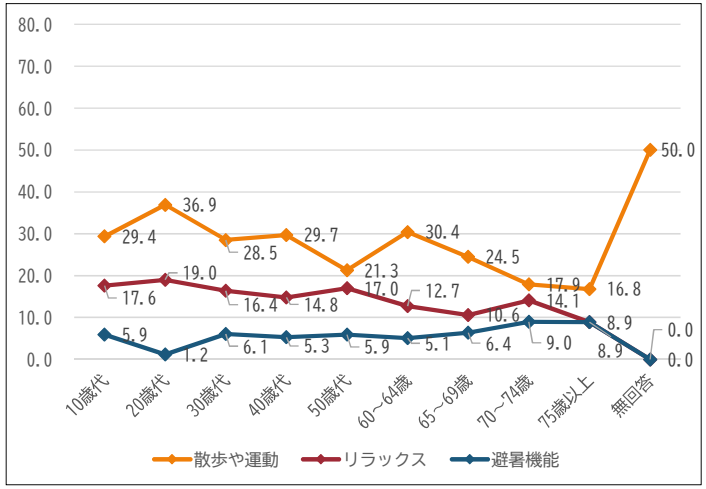


図10　年齢別最も魅力に感じている点
（要点抜粋）

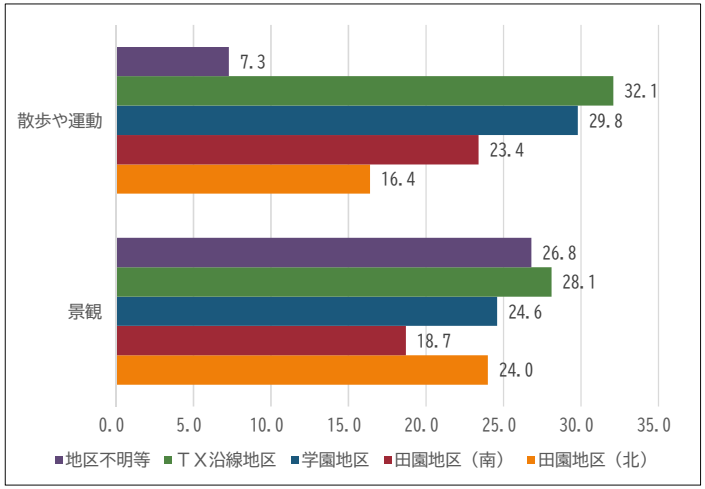


図11　居住地別最も魅力に感じている点
（要点抜粋）

市民アンケート調査の集計分析結果について

資料２

○自宅・所有地等の緑で困っている点（問８）

【単純集計】
- 「維持・管理の手間」や「費用」、「害獣・害虫の発生」の回答率が高い傾向にある。
- 単一回答においてもおおむね同様の傾向にある。

【クロス集計】
①年齢別回答傾向の分析
- 「維持・管理の手間」、「費用」については、おおむね65歳までは高齢になるほど回答率が高い傾向。
- 「害獣・害虫が発生する」については30歳代、40歳代をピークに年齢が高くなるほど回答率が低い傾向にある。

②居住地別回答傾向の分析
- 田園地区（北）や（南）では「維持・管理の手間」、「費用」や「後継者がいない」について、回答率が高い傾向にある。

③居住期間別回答傾向の分析
- 複数回答では居住期間が長いほど「維持管理の手間」「費用」が負担になっていることが伺える。

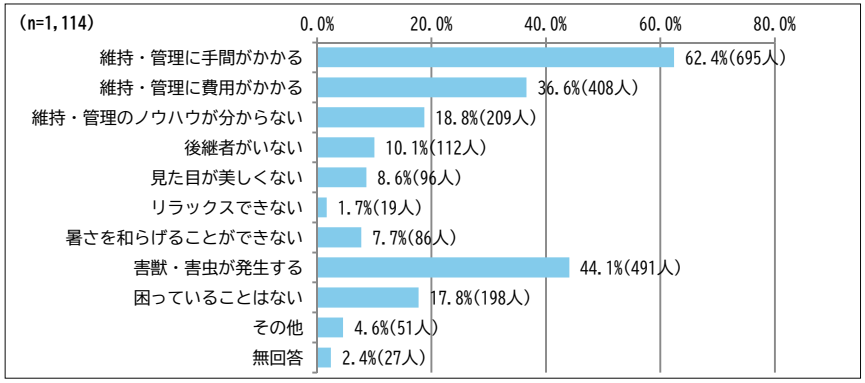


図12　困っている点（自宅等）（単純集計）

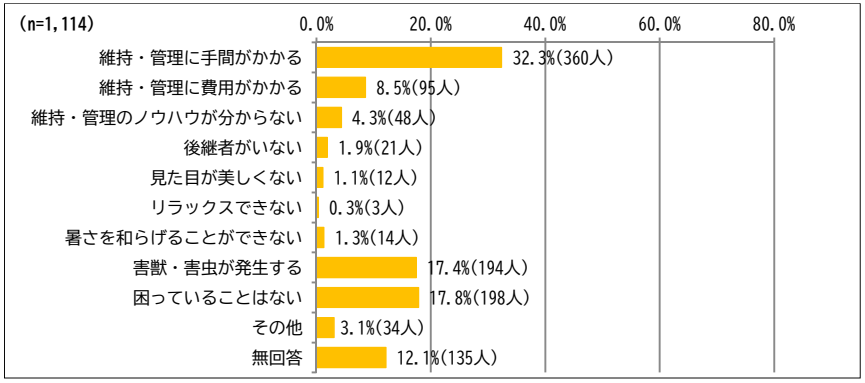


図13　最も困っている点（自宅等）（単純集計）

考察

- 自由記述の回答や市内における害獣・害虫に関する苦情の発生状況から、害獣はタヌキやイノシシ、ハクビシンなど、害虫はケムシや蚊、ハチなどを念頭に回答していると予想される。
- 年齢別クロス集計結果から、高齢の方ほど「維持・管理に手間がかかる」、「維持・管理に費用がかかる」と感じやすいことが伺える。体力的な限界を迎え始めていること、年金暮らしになっていることなどが要因として考えられる。
- また、一戸建て住宅にお住いの方のほうがこのような困りごとを感じやすい傾向にあることから、一戸建て住宅にお住まいで庭をお持ちの方が、居住期間が長くなるほど樹木が大きく育ち、自宅の緑の維持・管理が負担に感じている可能性があると考えられる。
- 「害獣・害虫が発生する」については高齢者ほど里山や農地に近い環境で生活してきた経験があることで、受容度が高いことが回答率の低さに影響している可能性がある。一方で、30歳代・40歳代では住宅購入しある程度年数が経過するなかで、徐々に困りごとになりつつある可能性が考えられる。
- 居住地別に「維持・管理に手間がかかる」や「維持・管理に費用がかかる」、「後継者がいない」について回答傾向に差があったが、これは田園地区（北）及び（南）では一戸建て住宅に居住している方が多い一方、学園地区やＴＸ沿線地区では集合住宅に居住している割合が多くなっていることが影響した可能性が高いと考えられる。

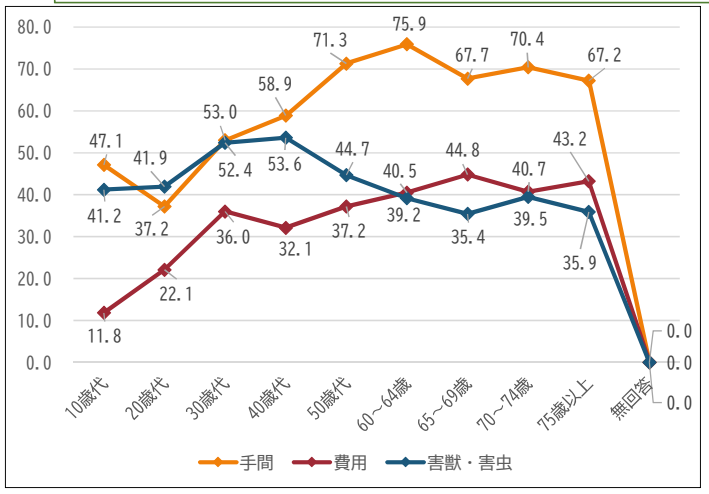


図14　年齢別困っている点
（要点抜粋）

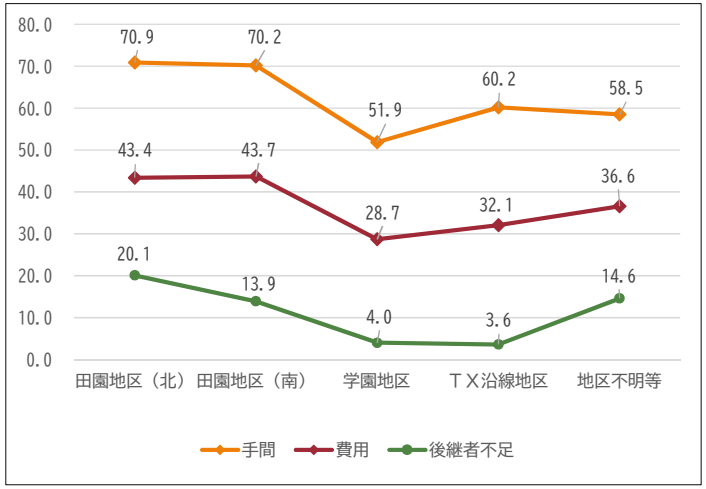


図15　居住地別困っている点
（要点抜粋）

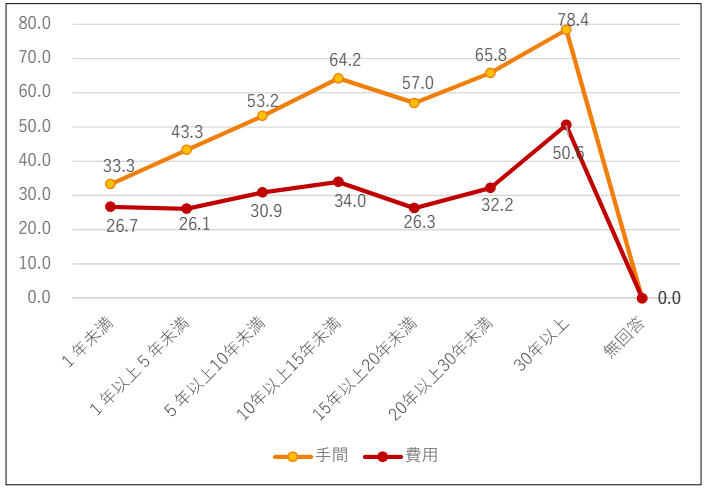


図16　居住期間別困っている点
（要点抜粋）

市民アンケート調査の集計分析結果について

資料２

○公共の緑で困っている点（問９）

【単純集計】
- 複数回答では多くの方が「維持・管理が適切に行われていない」や「害獣・害虫が発生する」を理由を挙げている。
- 単一回答においてもおおむね同様の傾向にある。
- 自由記述の回答では「公園・緑道の大きく成長した樹木から発生する落ち葉」や「国・県道など幹線道路の交差部・中央分離帯などの雑草による見通しの悪さ」、「街路樹による歩道の根上がり」などが理由に挙げられている。

【クロス集計】
①年齢別回答傾向の分析
- 「害獣・害虫が発生する」については30歳代をピークに、高齢になるほど回答率が減少する傾向にある。

②居住地別回答傾向の分析
- 「害獣・害虫が発生する」については、学園地区・ＴＸ沿線地区で回答率が高い傾向にある。

③居住期間別回答傾向の分析
- 「害獣・害虫が発生する」については、居住期間が短いほど回答率が高い傾向にある。

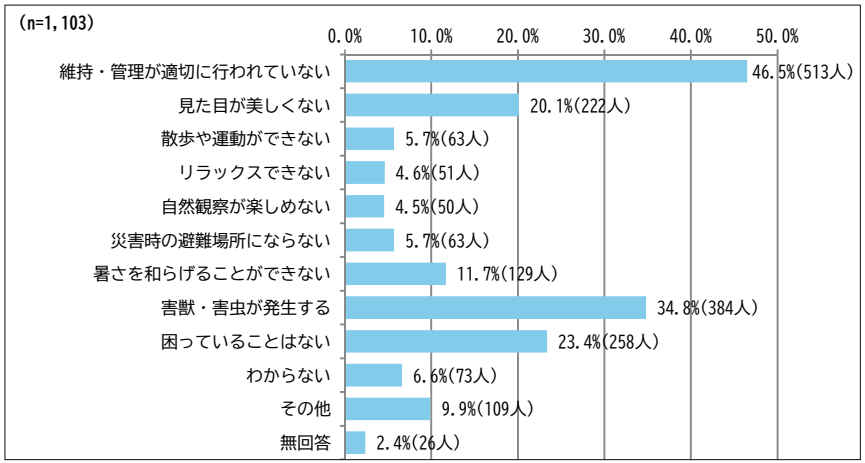


図17　困っている点（公共）（単純集計）

考察

- 「維持・管理が適切に行われていない」については、いずれのクロス集計においても回答に傾向差がみられず、アンケートの結果のみでは具体的にどのような公共施設を意識した回答であるかについては特定が困難。
- 「害獣・害虫が発生する」については、学園地区・ＴＸ沿線地区で回答率が高いことと、居住期間が短いほど回答率が高い傾向であったことから、以下のような要因が考えられる。
  - ➢ つくば市では、新興住宅地近辺にも緑が多いことから、東京など他自治体の都市部と比較すると多様な生き物との接触機会が多い可能性がある。
  - ➢ 特に学園地区ではまちなかに緑が多いことから、ムクドリのフン害やケムシの大量発生などの苦情も市に寄せられている。
  - ➢ したがって、学園地区やＴＸ沿線地区に近年移住してきた方が、厳密には害獣・害虫ではないものに対しても受容度が低く、困りごととして感じている可能性がある。
- 害獣・害虫に関する困りごとについては、生物多様性に配慮したまちづくりを進めることで、害虫の天敵となる生物の生息環境を守り、結果的に害虫の発生を抑えていく取組みにより被害を軽減できる可能性がある。

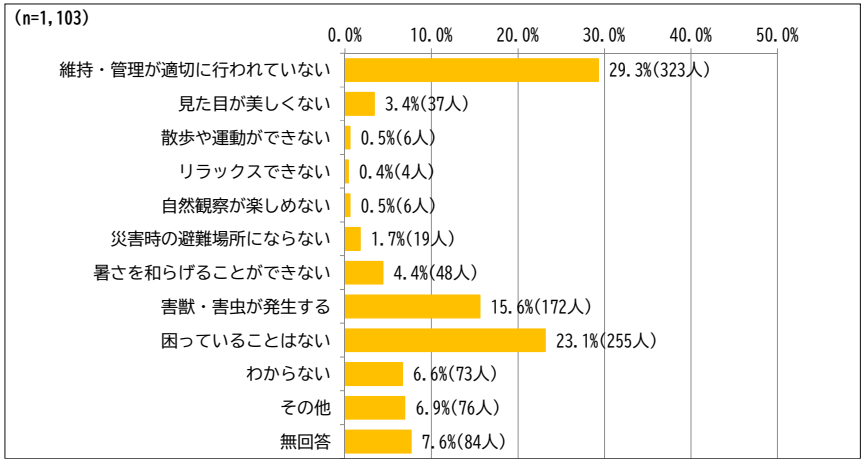


図18　最も困っている点（公共）（単純集計）

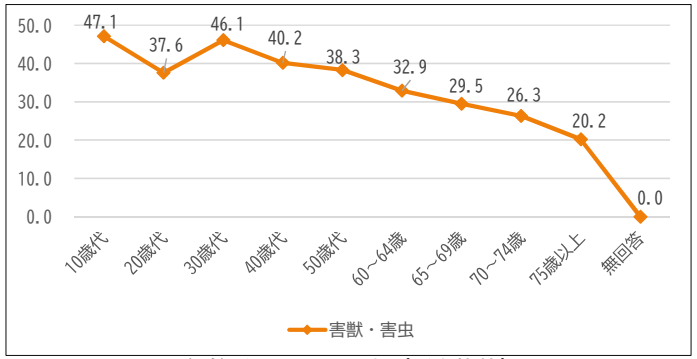


図19　年齢別困っている点（要点抜粋）

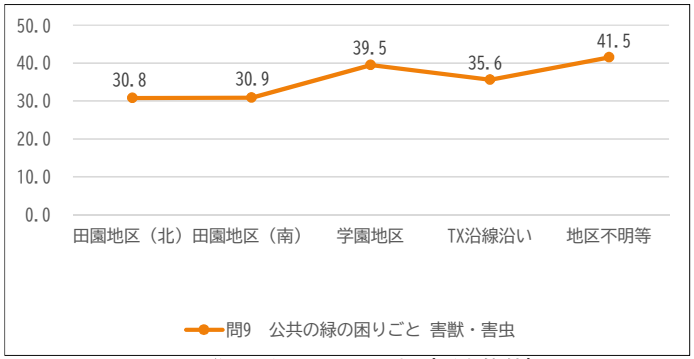


図20　居住地別困っている点（要点抜粋）

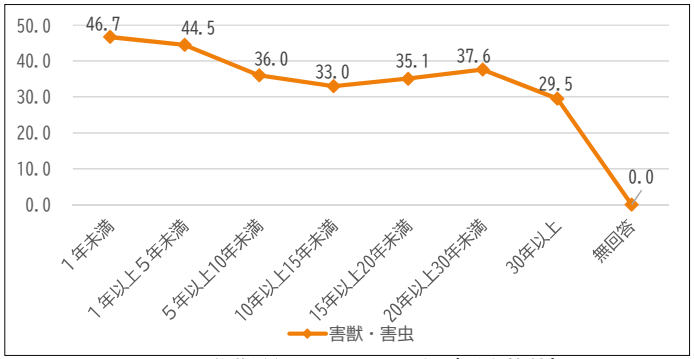


図21　居住期間別困っている点（要点抜粋）

市民アンケート調査の集計分析結果について

資料２

○その他の緑で困っている点（問10）

【単純集計】
- 複数回答では多くの方が「維持・管理が適切に行われていない」や「害獣・害虫が発生する」を理由に挙げている。
- 「困っていることはない」と回答した方も多く見られた。
- 単一回答においてもおおむね同様の傾向にある。

【クロス集計】
①年齢別回答傾向の分析
- 「維持・管理が適切に行われていない」については、おおむね高齢になるほど回答率が高い傾向にある。
- 「害獣・害虫が発生する」については30歳代・40歳代で回答率が高く、高齢になるほど回答率が低い傾向にある。
- 自宅や所有地の緑、公共の緑と比較し、「困っていることはない」の回答数が最も多い。

②居住地別回答傾向の分析
- 「維持・管理が適切に行われていない」、「害獣・害虫が発生する」について、田園地区（北）及び（南）で回答率が高い傾向にある。

③居住期間別回答傾向の分析
- 「維持・管理が適切に行われていない」については、居住期間が長くなるほど回答率が高い傾向であった。

考察

- 年齢別及び居住期間別には、おおむね公共の緑（問９）と同様の回答傾向であった。
- 一方、居住地別には「害獣・害虫が発生する」について、公共の緑（問９）と回答傾向が逆転していた。これは以下のような要因が考えられる。
  - 学園地区・ＴＸ沿線地区は市街地部分が大部分を占め、相対的に公共の緑が多いが、田園地区（北）及び（南）では公共の緑に比べ、民有の緑も多く存在している。
  - したがって、一般的に緑に対する困りごとは共通しているものの、地区別に目につきやすい緑が異なることから、傾向差が生じた可能性がある。
- 緑の困りごと全体としては、直接的に被害を受けやすい点や緑の見栄えなどで回答率が高くなる傾向で、緑の副次的な効果（暑さを和らげることができないなど）は機能が十分に発揮されていなくとも、困りごととしては認識されにくい可能性がある。

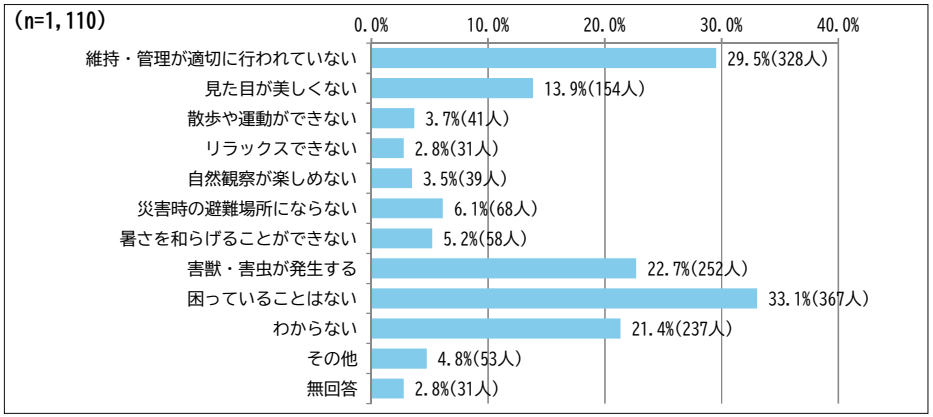


図22　困っている点（その他）（単純集計）

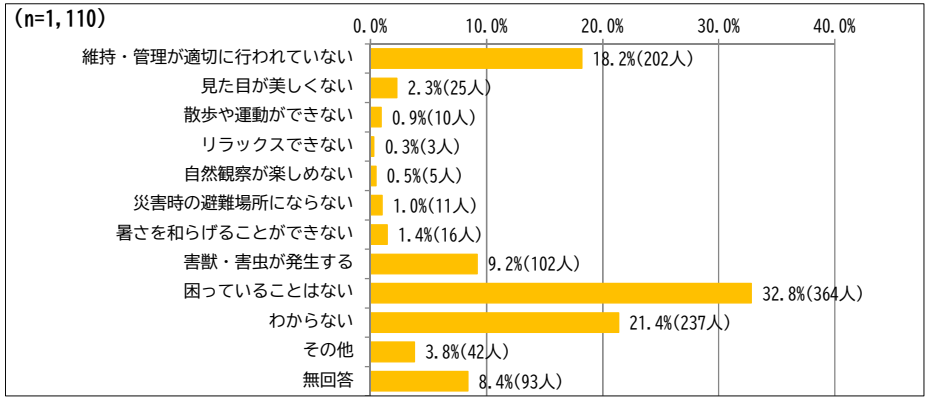


図23　最も困っている点（その他）（単純集計）

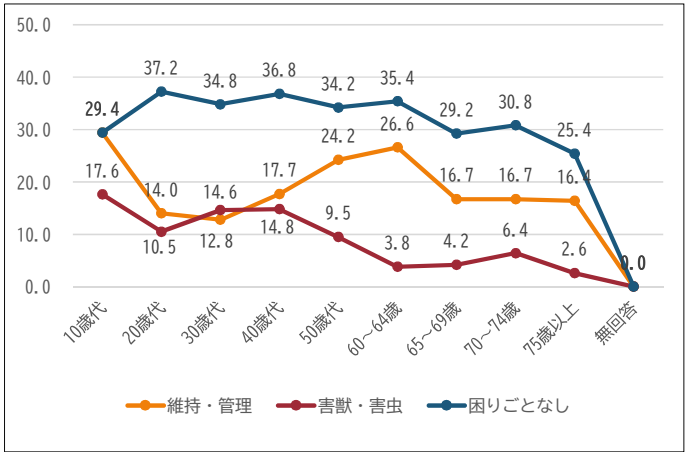


図25　年齢別困っている点
（要点抜粋）

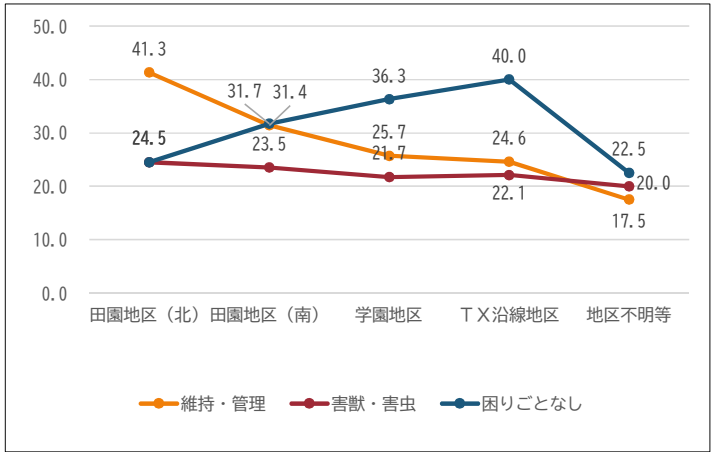


図25　居住地別困っている点
（要点抜粋）

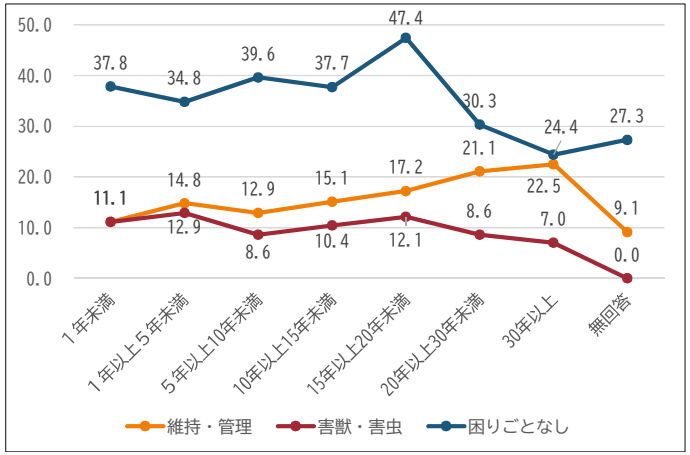


図26　居住期間別困っている点
（要点抜粋）

市民アンケート調査の集計分析結果について

資料２

○地域の公園・広場・遊び場の管理状況の満足度（問11）

【単純集計】
- 満足度を50%以上とする目標には届かなかったが、現行計画策定時点の29.3%から40.5%に11.2ポイント増加した。
- 「どちらかというと不満」、「不満」を合わせた回答率は、33.2%から16.5%に16.7ポイント減少した。

【クロス集計】
①年齢別回答傾向の分析
- 高齢になるほど満足度は低下する傾向にある。

②居住地別回答傾向の分析
- 学園地区・ＴＸ沿線地区において満足度が高い傾向にある。

考察

- 目標値には届かなかったものの、満足の割合が増加し、不満の割合が減少していることから、地域の公園・広場・遊び場の管理状況は改善していると考えられる。
- ＴＸ沿線地区では公園整備が順次進められていることにより、量的な観点から満足度が向上した可能性がある。
- 公園の維持管理及び運用に関して以下のような取組みを実施したことも満足度の向上につながった可能性がある。
  - 各公園の利用実態や近隣住民の要望に合わせた環境整備
  - 公園の利用実態に合わせた植栽維持管理の実施時期・回数等の調整
  - プレイパーク、流星台スケートボードパークなど新たなニーズに合わせた施設整備
  - 行為許可制度による民間イベントによる公園利用の増加
- 市の取組みのほか、アダプト・ア・パーク制度により地域住民が落ち葉回収や花壇手入れなどに取り組んだことにより、快適な公園環境が維持されやすくなったことも満足度の向上に寄与した可能性がある。
- このほか外的要因として、新型コロナウィルス（COVID-19）の感染拡大により、不要不急の外出の自粛（特に市域や県域をまたいだ移動の自粛）が求められ、三密の回避や社会的距離（ソーシャルディスタンス）の確保が求められた結果、公園等をはじめとした身近な緑のオープンスペースの価値が再認識・再評価されたことが満足度が向上に影響した可能性が考えられる。

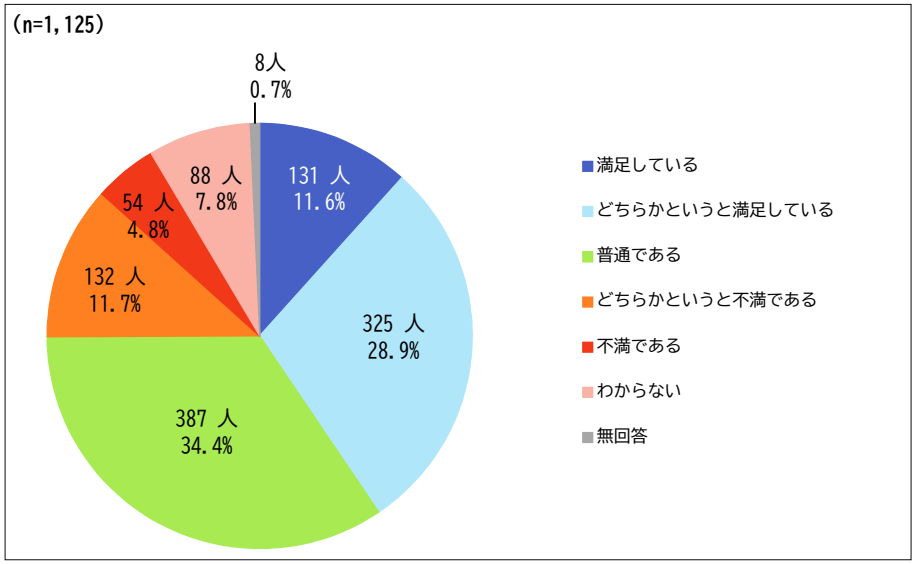


図27　地域の公園・広場・遊び場の管理状況の満足度（単純集計）

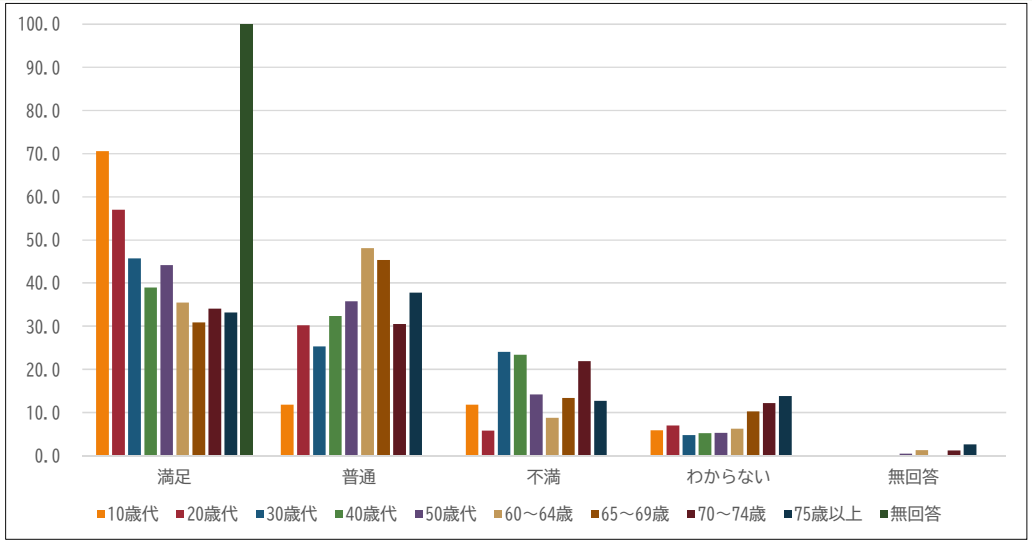


図28　年齢別満足度
（要点抜粋）

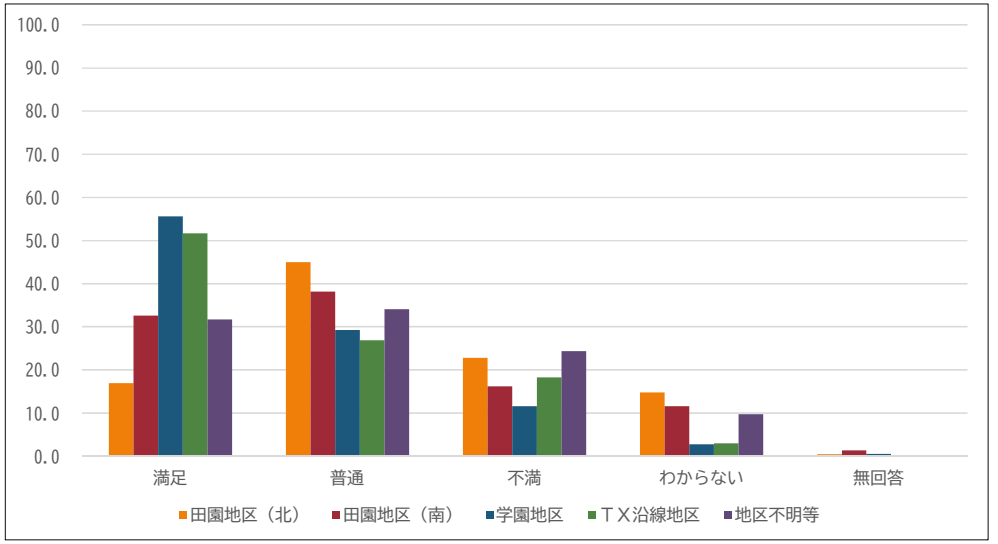


図29　居住地別満足度
（要点抜粋）

市民アンケート調査の集計分析結果について

資料２

○地域の緑や自然の豊かさの満足度（問12）

【単純集計】
- 満足度を75%以上とする目標には届かず、現行計画策定時点の65.5%から55.3%に10.2ポイント減少した。
- 「どちらかというと不満」、「不満」を合わせた回答率は、10.8%から10.5%に0.3ポイント減少している。
- 「普通」については22.5%から31.7%に9.2ポイント増加している。

【クロス集計】
①年齢別回答傾向の分析
- 高齢になるほど満足度は低下する傾向にある。

②居住地別回答傾向の分析
- 学園地区とＴＸ沿線地区では満足度が高い一方、田園地区（北）では低い傾向にある。
- 田園地区（北）では「普通である」の割合が高い傾向にある。

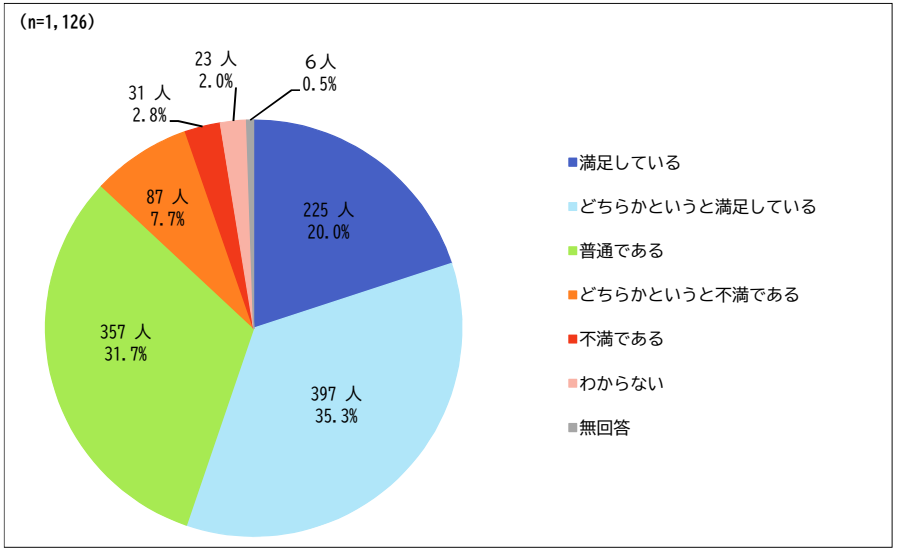


図30　地域の緑や自然の豊かさの満足度（単純集計）

考察

- 満足及び不満の割合がともに減少しており、普通と感じる方の割合が増加していることが特徴である。
- 学園地区やＴＸ沿線地区では、田園地区（北）及び（南）に比べ緑の量が少ないにも関わらず、わずかではあるが満足度が高い傾向。
- このことから、単に緑の量だけではなく、人の手が入ることにより適切に管理された緑に対して満足度が高くなると考えられる。
- 田園地区（北）においては、農地や山林の緑が豊富であり、緑が身近にあることが当たり前になり、その価値が実感しにくい状況となっている可能性が考えられる。
- したがって以下のような取組みを推進することにより、満足度の向上を図ることが求められていると考えられる。
  - ➢ 既存の自然観光資源を活用した取組み（筑波山梅まつりやジオツーリズム）
  - ➢ 周辺市街地の住民と連携した新たな魅力の発掘（周辺市街地（Ｒ８）活性化の取組み）
  - ➢ 増加する荒廃した森林や遊休農地を活用する取組み（森林バンクや農地再生チャレンジ）

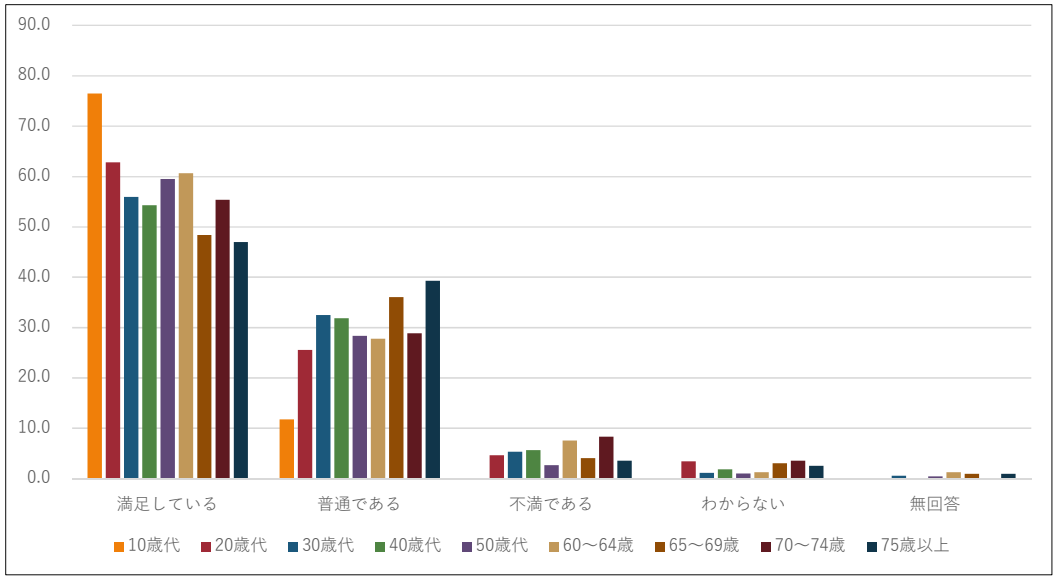


図31　年齢別満足度
（要点抜粋）

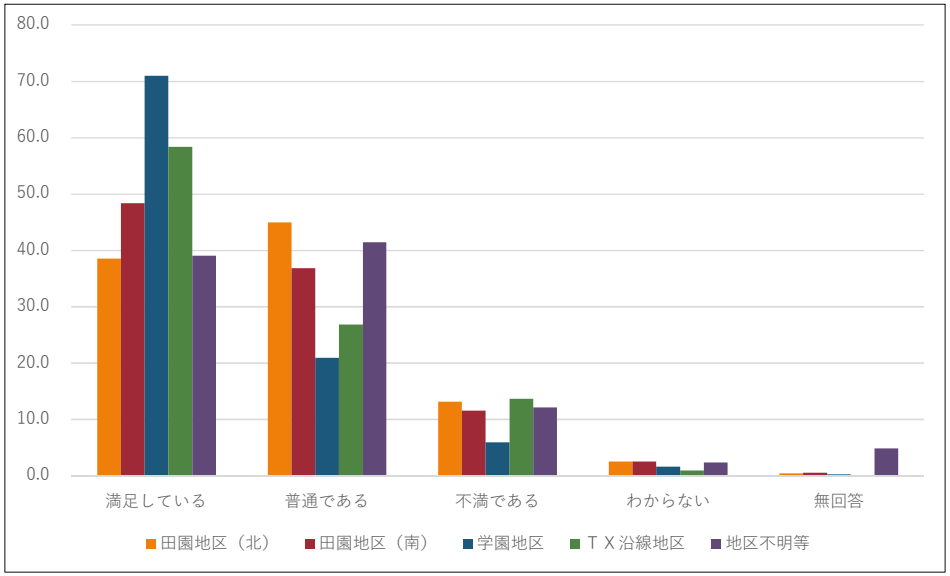


図32　居住地別満足度
（要点抜粋）

市民アンケート調査の集計分析結果について

資料２

○身近な緑の量に対する意向（問13）

【単純集計】
- 「現状の量を維持すべき」は65.4%で最多であり、「増やすべき」は20.8%であった。

【クロス集計】
①居住地別回答傾向の分析
- ＴＸ沿線地区では「増やすべき」の回答率が他の地区に比べ高い傾向にある。
- 学園地区では「現状の量を維持すべき」の回答率が他の地区に比べ回答率が高い傾向にある。

②身近な緑の魅力（問７）との相関
- 身近な緑の魅力について「魅力を感じない」と回答した方は、いずれかの緑の魅力を感じると回答した方と比較して「減らすべき」又は「わからない」の回答率が高い傾向であった。
- 身近な緑の魅力についていずれかの緑の魅力を感じると回答した方は、「魅力を感じない」と回答した方と比較して「現状の量を維持すべき」の回答率が高い傾向であった。

考察

- 市全体の緑の量は現状を維持していくことが求められると考えられる。
- 学園地区で「現状の量を維持すべき」の回答率が他の地区に比べ高い傾向であったことから、まちなかの緑の量としては学園地区がモデル的であると考えられる。
- ＴＸ沿線では「増やすべき」の回答率が相対的に高い傾向にあることから、市域全体の方針としては現状の量を維持しつつ、局所的に間引いたり、増やしたりする施策も実施することが求められる。

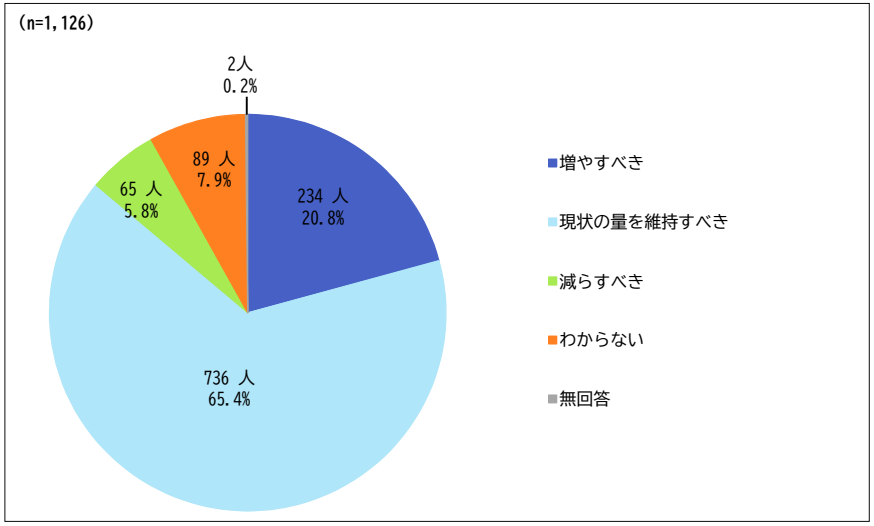


図33　地域の緑や自然の豊かさの満足度（単純集計）

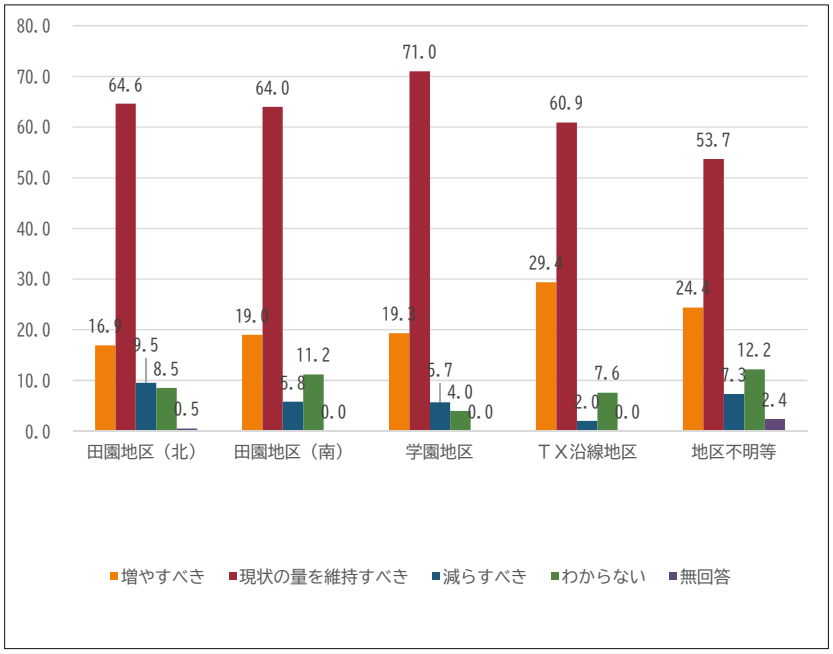


図34　居住地別意向
（要点抜粋）

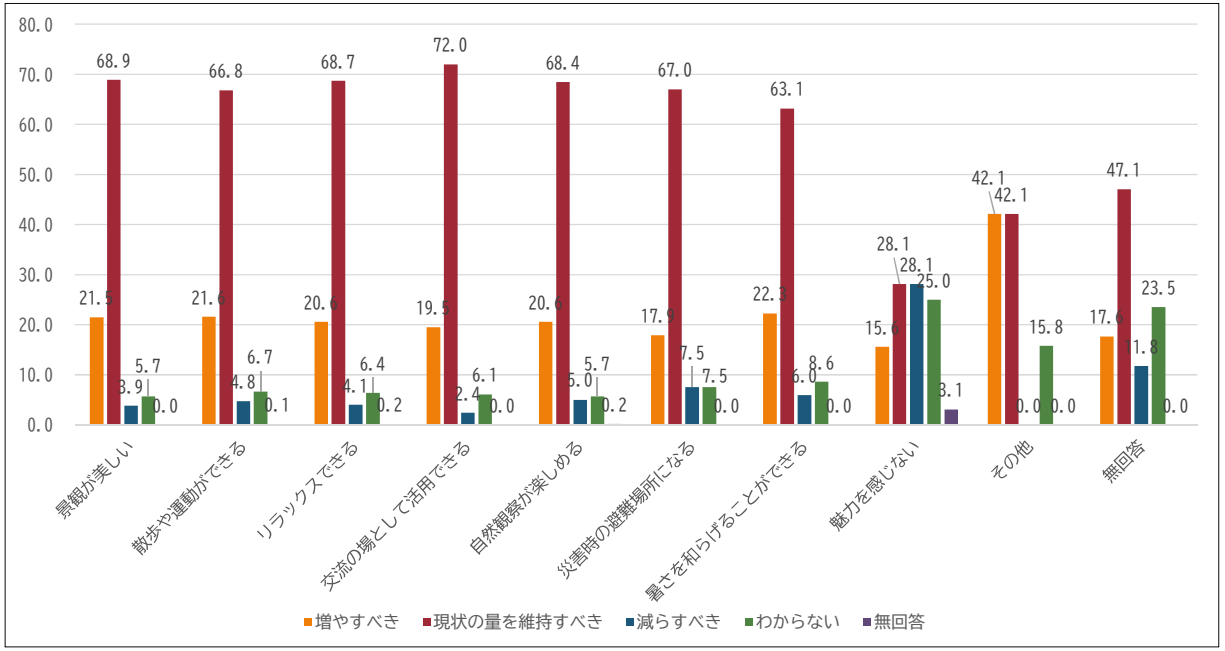


図35　魅力（問７）別意向
（要点抜粋）

市民アンケート調査の集計分析結果について

資料２

○魅力を維持し、困っていることを改善するためにやってみたいこと（問14）

【単純集計】
- 「貢献することが難しい」を選択した方が最も多く、55.5%であった。
- やってみたい緑に関する取組みについては、「活動に協力してみたい」が最も回答が多く（29.5%）、次いで「知識や経験、アイディアを活かしてみたい」（9.2%）、「資金や物品を提供してみたい」（4.6%）であった。

【クロス集計】
①年齢別回答傾向の分析
- 「活動に協力してみたい」については、50歳代・60歳代で回答率が相対的に高く、75歳以上では回答率が低い傾向にある。
- 「知識や経験、アイディアを活かしてみたい」については、60～64歳で回答率が相対的に高く、65歳以上では回答率が低い傾向にある。
- 「資金や物品を提供してみたい」や「貢献することは難しい」については年齢別の傾向差はみられなかった。

②職業別回答傾向の分析
- 特に「知識や経験、アイディアを活かしてみたい」では「研究職」、「学生」において回答率が高く、「貢献することは難しい」が低い傾向にある。

③居住地別回答傾向の分析
- 「活動に協力してみたい」について、学園地区・ＴＸ沿線地区で回答率が高く、田園地区（北）及び（南）で低い傾向にある。

考察

- 「貢献することが難しい」及び「無回答」の除いた差分である40.6%の方が、何らかの形で緑に関する取組みをやってみたいと回答していることから、緑の取組みを広げていくにあたり相当数の潜在的な協力者がいると評価できる。
- このような人材をターゲットとした施策を展開することで、緑地保全や緑化に関して、市民協働を進めることができる可能性がある。
- 現役時代にさまざまな経験や知識を獲得し、退職前後で比較的体力に余裕のある50歳代・60歳代をターゲットに、協働していくことが考えられる。
- 研究職や学生の知見を活かし、取組みをより実効的にすることも考えられる。
- 学園地区及びＴＸ沿線地区では比較的若い世代が多く、田園地区（北）及び（南）では高齢の方が多いことが居住地別の回答傾向に影響した可能性がある。

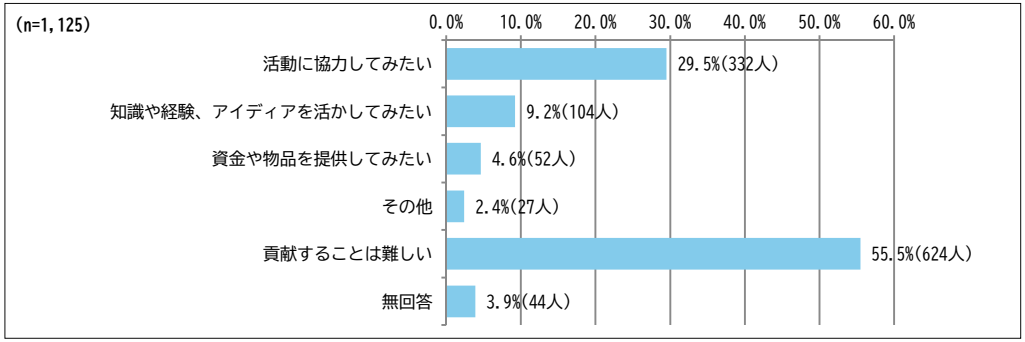


図36　地域の緑や自然の豊かさの満足度（単純集計）

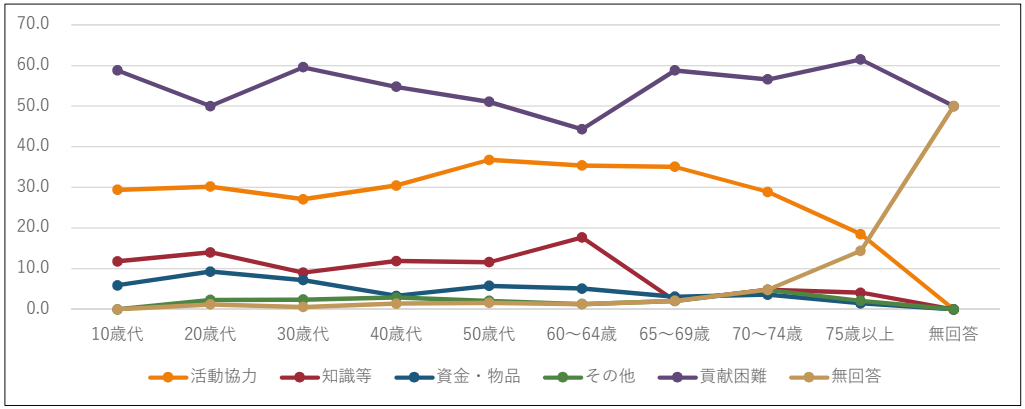


図37　年齢別やってみたいこと

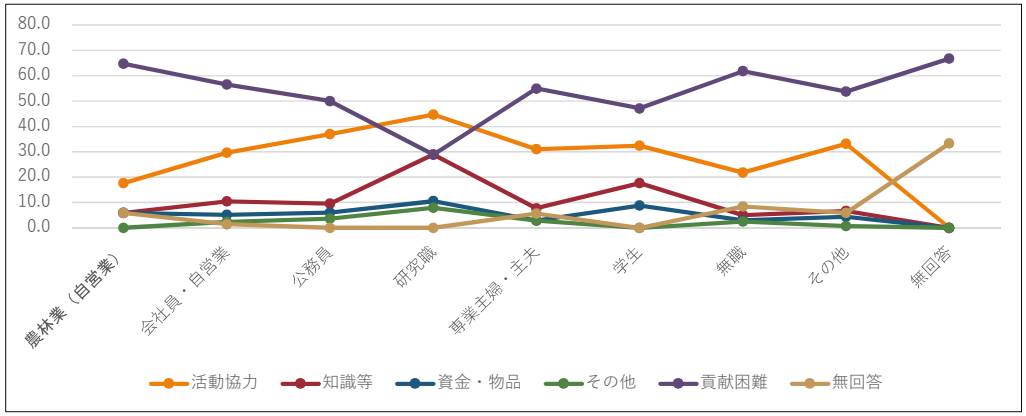


図38　職業別やってみたいこと

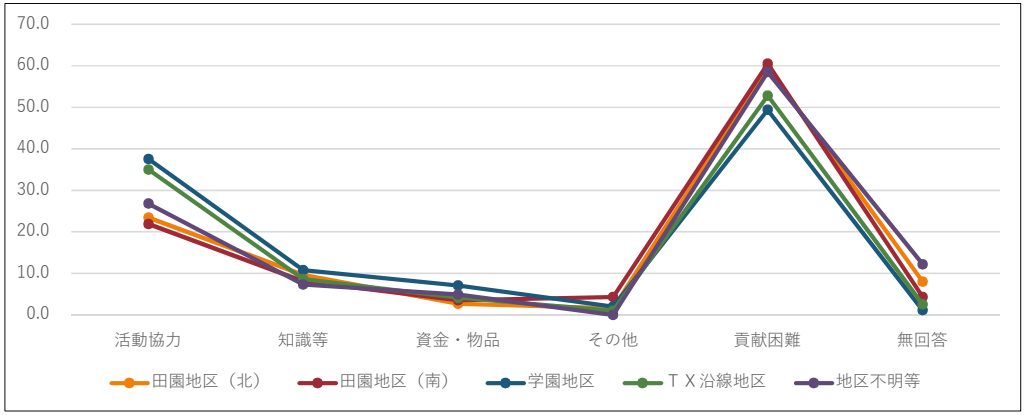


図39　居住地別やってみたいこと

市民アンケート調査の集計分析結果について

資料２

○やってみたい具体的な内容（問15～18）

【単純集計】

- 「草刈りやゴミ・落ち葉集め」178人、「植樹や花植え」135人、「緑地保全や緑化イベントへの参加」134人、「自宅の緑化」131人など、参加のハードルが低いものについての参加意欲が高い傾向であった。
- 「行政の施策への助言」42人、「身近な人々への呼びかけ・アドバイス」33人など、参加のハードルが低いものについての参加意欲が高い傾向であった。
- また、「緑空間を活用したイベントの開催」33人、「緑地保全イベントの開催」26人、「緑化イベントの開催」24人と、市民が知識等を活かして主体的にイベントを開催したいというニーズがあることは、つくば市の特色であるといえる。
- 「募金や寄付」34人、「クラウドファンディングへの出資」30人など、比較的簡便な手段で貢献することが可能な取組みに参加意欲が高い傾向であった。
- また、「地産地消の推進」20人、「環境配慮製品の購入」13人など、日常の購買時に少しの心がけで貢献できるものについても比較的回答が多い傾向であった。

【クロス集計】

①年齢別回答傾向の分析

- 「緑地保全や緑化イベントへの参加」については、おおむね年齢が低いほど回答率が高い傾向にある。

②居住地別回答傾向の分析

- 「樹木や植栽の見守り、異常発生時の通報」について学園地区が他地区と比べ、顕著に回答率が高い傾向にある。

③居住期間別回答傾向の分析

- 「自宅の緑化」については居住年数が１年以上５年未満で顕著に高い傾向にある。

考察

- このことから、簡便な方法で資金等を提供できる仕組みづくりを行うことで、このようなニーズを活用できる可能性がある。
- 学園地区には公共の緑が多く存在し、他地区に比べ身近にあることが「樹木や植栽の見守り、異常発生時の通報」の回答率に影響した可能性が考えられる。また、このような緑が研究学園都市の整備から40～50年経過したことで大きく育ち、市民の困りごととして表面化してきていることも伺える。
- 自宅の緑化については、移住して日が浅い＝住宅を建築したばかりの方でニーズが特に高いと考えられる。

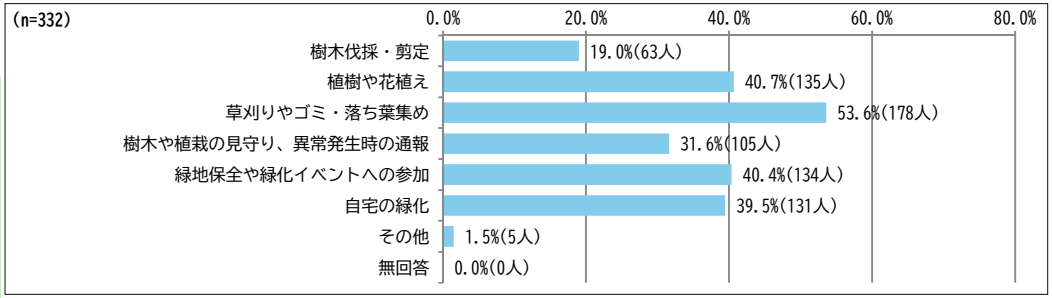


図40　「活動」の具体的な内容（単純集計）

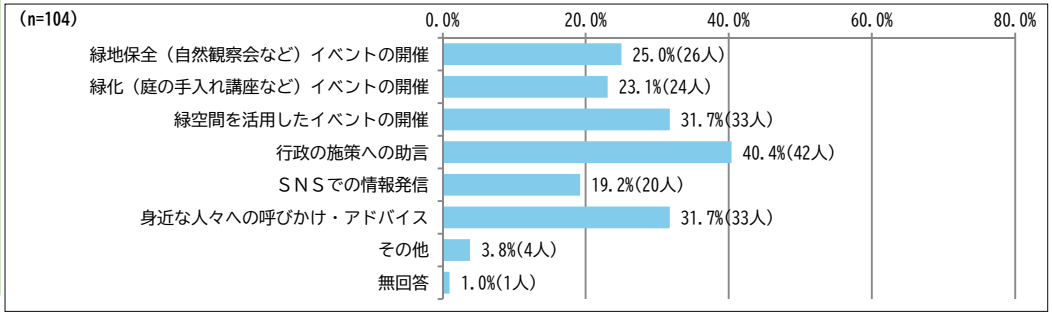


図41　「知識、経験、アドバイス」の具体的な内容（単純集計）

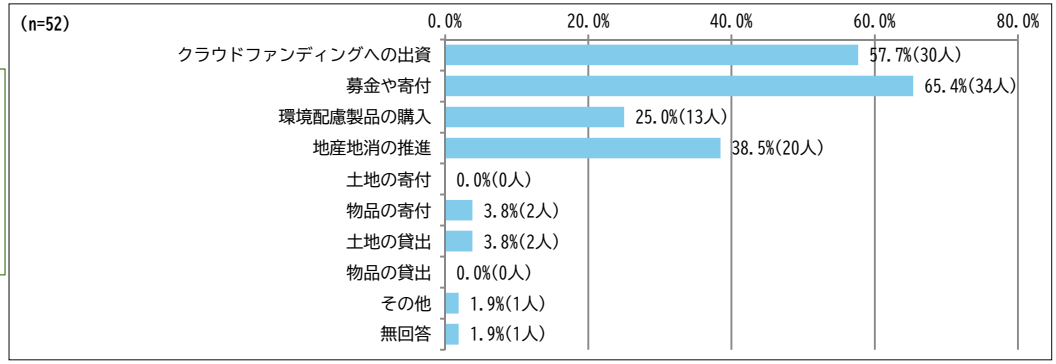


図42　「資金、物品」の具体的な内容（単純集計）

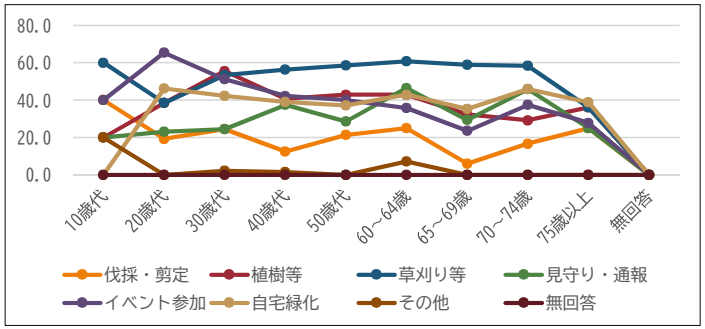


図43　年齢別「活動」の内容

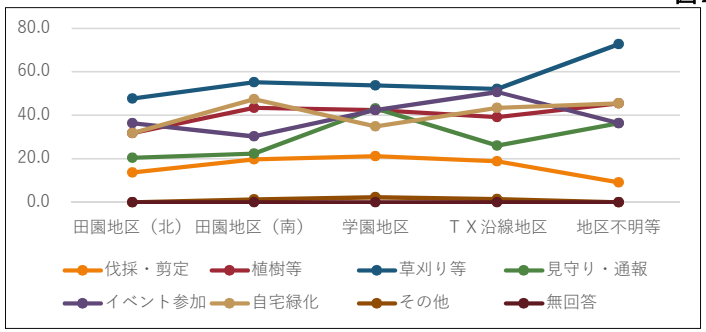


図44　居住地別「活動」の内容

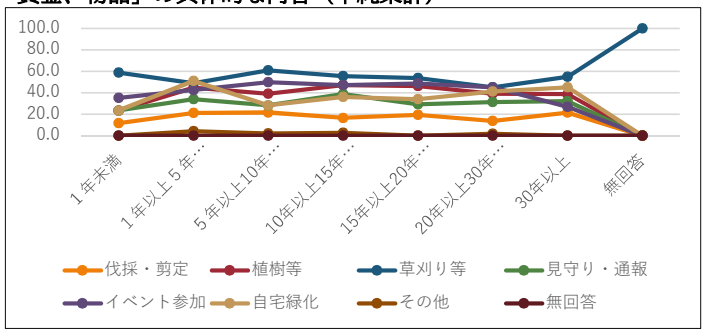


図45　居住期間別「活動」の内容

市民アンケート調査の集計分析結果について

資料２

○やってみたいことを後押しする市からのサポート（問19）

【単純集計】
- 最も回答率が高かったのは「機会の提供・調整」であり、次いで「専門家のアドバイスやサポート」「活動資金の補助」であった。

【クロス集計】
①やってみたいこと（問14）別回答傾向の分析
- いずれの取組みをやってみたい方でも「機会の提供・調整」、「専門家のアドバイスやサポート」、「活動資金の補助」「コミュニティ・連携プラットフォームの提供」の回答率が高い傾向であった。
- 貢献することは難しいと回答した方については、「活動資金の補助」「機会の提供・調整」「専門家のアドバイスやサポート」の順で回答率が高い。

考察

- ➡緑の取組みを広げるためにも、特に「活動資金の補助」「機会の提供・調整」「専門家のアドバイスやサポート」に関する施策を展開することは重要であると考えられる。

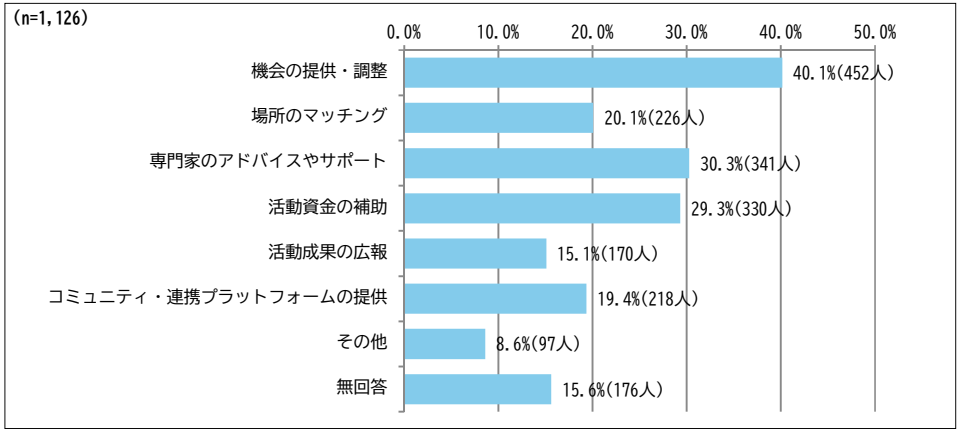


図46　市からのサポート（単純集計）

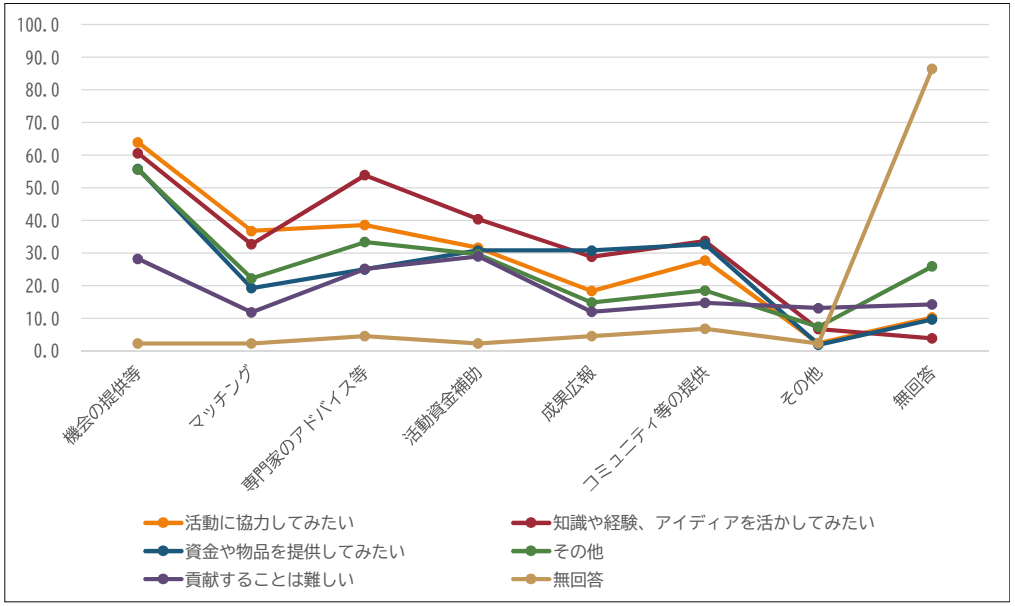


図47　やってみたいこと（問14）別ニーズ

市民アンケート調査の集計分析結果について

資料２

○緑の取組みに関する認知・参加・興味（問20）

【単純集計】
- 認知度は「筑波ふれあいの里」が22.3%と突出して高い傾向にあるが、「プレイパーク」は8.3%、「自然体験会」は7.2%、「生け垣設置奨励補助金」は6.6%「農地再生チャレンジ」は5.3%となっており、全体的には低い傾向にある。
- 参加したことがある取組みについては、「筑波ふれあいの里」が7.2%、「プレイパーク」が2.7%、「自然体験会」が1.9%となっており、全体的に低い傾向にある。
- 興味がある取組みについては、「筑波ふれあいの里」が40.1%、「自然体験会」が39.1%、「プレイパーク」が33.2%などとおおむね20%以上となっており、本アンケート調査を契機として取組みを知った方も興味を持ったと考えられる。
- どの取組みもおおむね認知度が低く、参加したことがある割合も低い一方で、興味があるという回答は多かった。

考察

- このことから、現時点では取組みを認知していない層も認知することによってターゲット層になり得るといえる。
- それぞれの取組みが緑の機能のうち何に主眼においたものであるか整理し、市民が考える緑の魅力や困りごととの相関があるか確認する。また、認知・参加・興味の状況をそれぞれ比較し、ギャップがある取組を整理する。

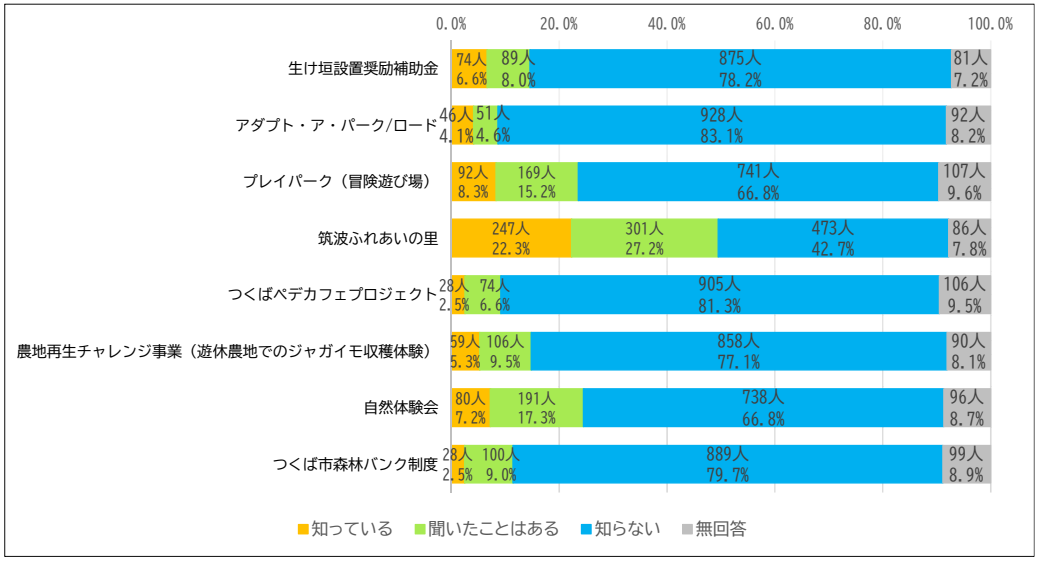


図48　認知状況（単純集計）

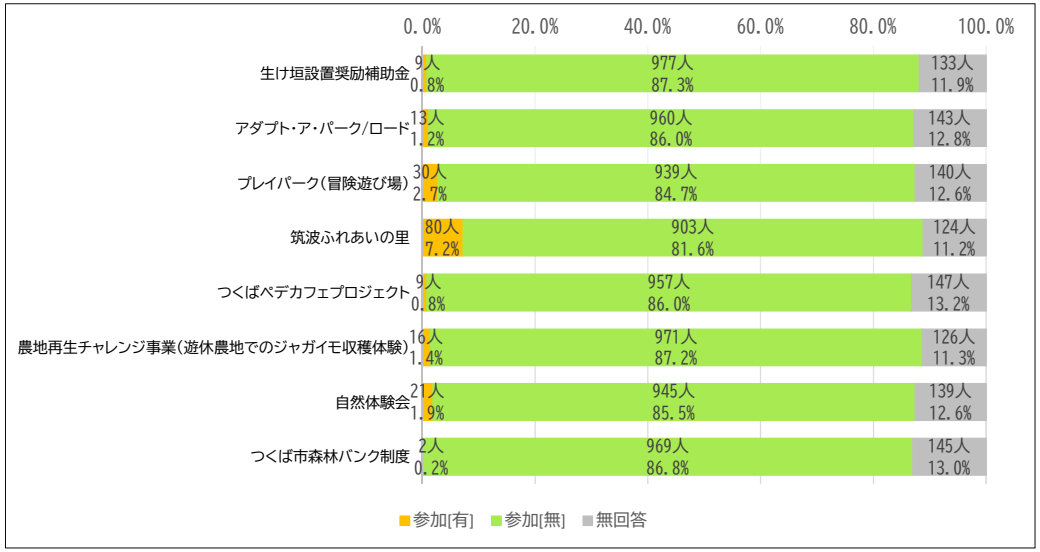


図49　参加状況（単純集計）

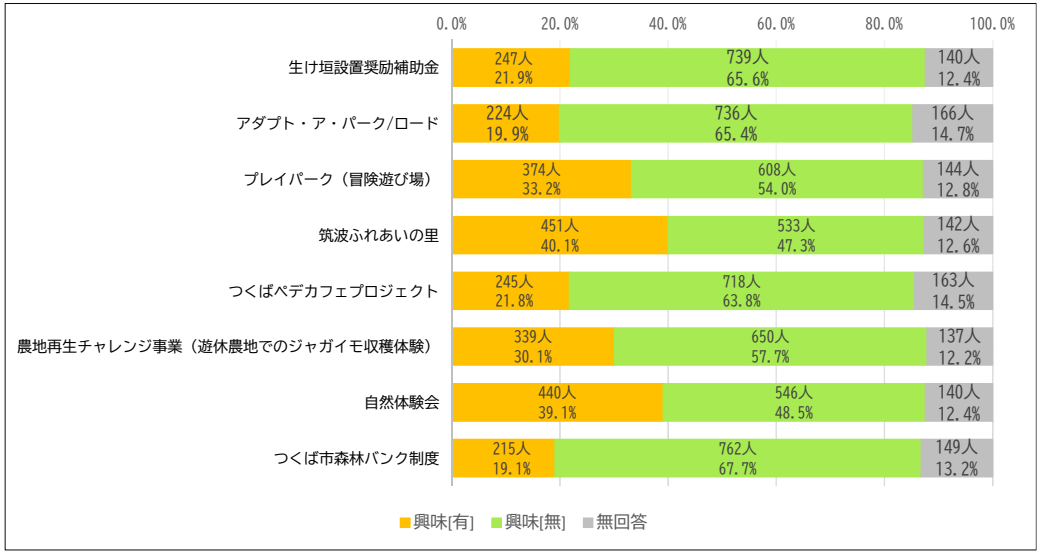


図50　興味関心の状況（単純集計）

市民アンケート調査の集計分析結果について

資料２

○緑の機能のうち重要と考えるもの（問21）

【単純集計】
- 複数回答では多くの方が「景観形成」や「防災・減災」「健康増進・子育て」「ゼロカーボン」を緑の機能として重視している一方、「ビジネスの維持・創出」や「交流・にぎわいの創出」、「生物多様性の保全」については回答率が低い傾向である。
- 単一回答においてもおおむね同様の傾向にある。

【クロス集計】
①年齢別回答傾向の分析
- 30歳代で「健康増進・子育て」の回答率が高い傾向であった。

②魅力（問７）別回答傾向の分析
- 身近な緑の魅力（問７）と比較し、回答の傾向はおおむね同様であったが、「災害時の避難場所になる」ことは身近な緑の魅力としては回答率が低かったのに対し、「防災・減災」の機能については重要度が高い傾向となっている。

考察

- 市民が考える緑の魅力や困りごととの相関があるか確認する。
- 市内の緑で防災・減災機能が十分に発揮されていない可能性がある。

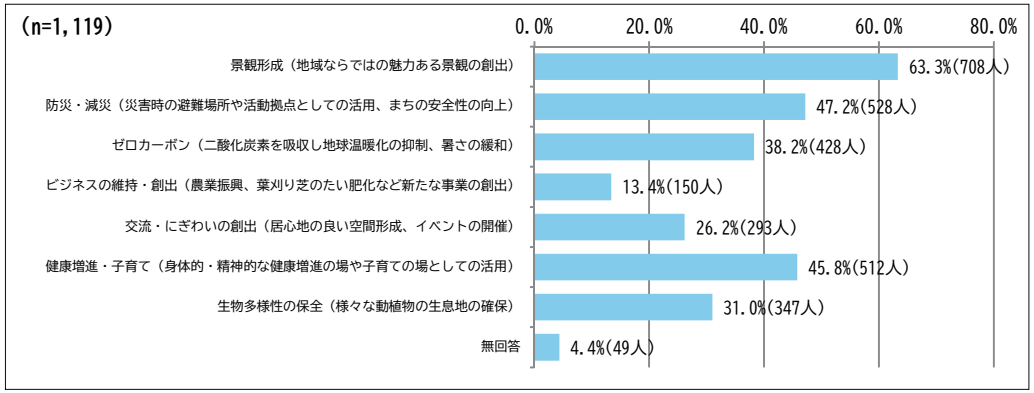


図51　重要と考える緑の機能（単純集計）

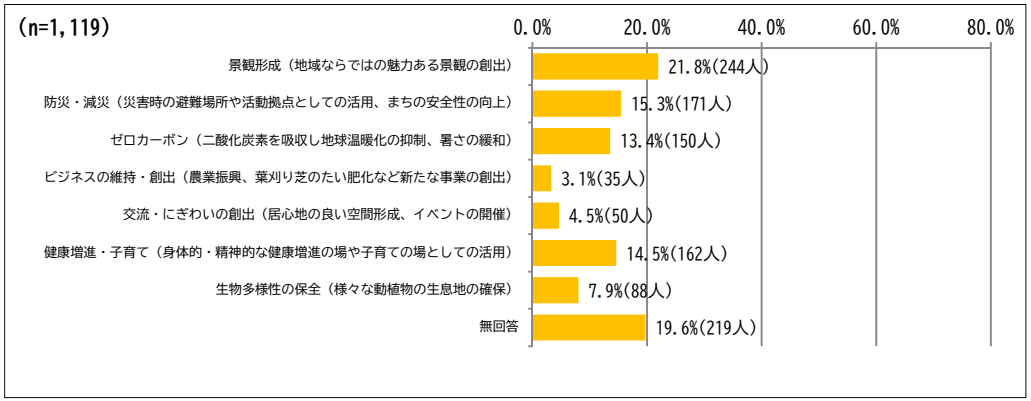


図52　最も重要と考える緑の機能（単純集計）

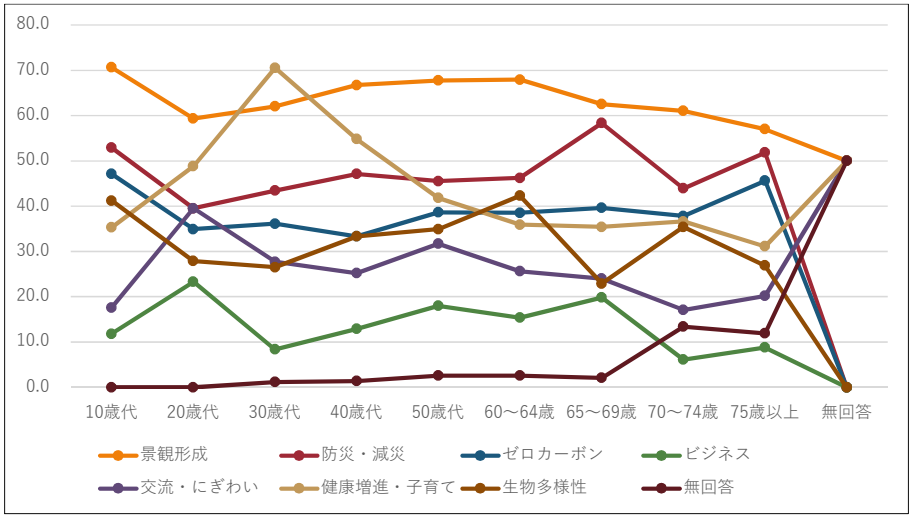


図53　年齢別重要な機能

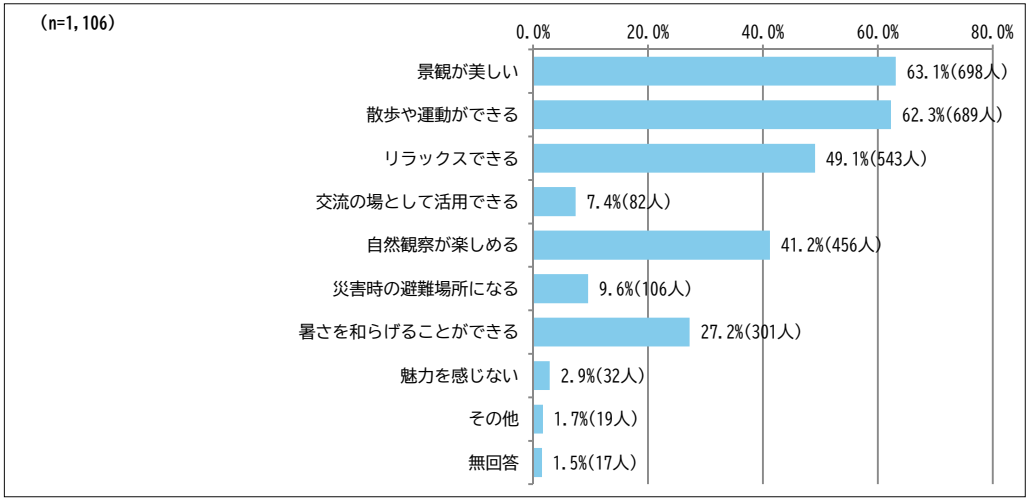


図54　魅力に感じている点（単純集計）【再掲】

市民ワークショップ企画案について

資料３

○目的

- 緑の現況課題について、フィールドワークを通し実感をもって把握する。
- 市民アンケート調査の分析結果を踏まえ、各地区における「量・質・更新」の向上のため、具体的にできる取り組みについてのアイディアを共有し合う。
- 市民ワークショップの内容は、緑の基本計画に位置付ける施策の参考にする。

○対象

つくば市在住の方（年齢制限なし）
子ども連れの方や学生の参加歓迎

○回数等

地区別（田園地区（北）・田園地区（南）・学園地区・ＴＸ沿線地区）で
各１回　計４回

○開催日時・場所

５月24日（日）９：00～12：00　コリドイオ　大会議室（学園地区）
　　14：30～17：30　つくばウェルネスパーク　研修室（田園地区（北））
５月31日（日）９：00～12：00　茎崎第二小学校　体育館（田園地区（南））
　　14：30～17：30　つくば市役所　会議室202（ＴＸ沿線地区）

○募集方法

広報つくば３月号において、ワークショップの開催について掲載済。
今後、つくば市公式ＨＰや公式ＳＮＳ等において随時募集、近隣の自治会等への呼びかけなどを実施予定。

○標準タイムスケジュール

- 9:00～9:20　アイスブレイク
  (14:30～14:50)
- 9:20～9:40　緑の現況・課題の共有
  (14:50～15:10)
- 9:50～10:50　フィールドワーク（準備10分・探索60分）
  (15:20～16:20)
- 11:00～11:40　グループワーク（40分）
  (16:30～17:10) 解決のためのアイディア出し
- 11:40～12:00　まとめ（準備10分・各班発表20分）
  (17:10～17:30)

地区	テーマ例
田園地区（北）	□ 自然と人間が共存していく上で理想的な緑とは何か。 □ 害獣・害虫で具体的に困っていることは何か。 □ 筑波山の自然や里山林などについて、残したい緑は具体的に何か。どう残していくべきか。
田園地区（南）	□ 家の周りにある緑で大切だと思うものは何か。 □ 10年後、家の周りの緑がどうなっていてほしいか。 □ 身近な緑を未来世代へ継承するために、何をやってみたいか。
学園地区	□ 計画的かつ効率的に樹木などの緑を、維持・管理していくための具体的方法は何か。 □ 限られた財源の中で、更新の優先順位をどう決めるか。 □ 将来に継承していくべき価値は何か。
ＴＸ沿線地区	□ どんな緑があると暮らしやすいか。 □ 都市開発において緑の量の確保するにはどうしたらよいか。 □ 今後、維持・管理していくにあたり、適切な緑の量とは。

市民ワークショップ企画案について

資料３

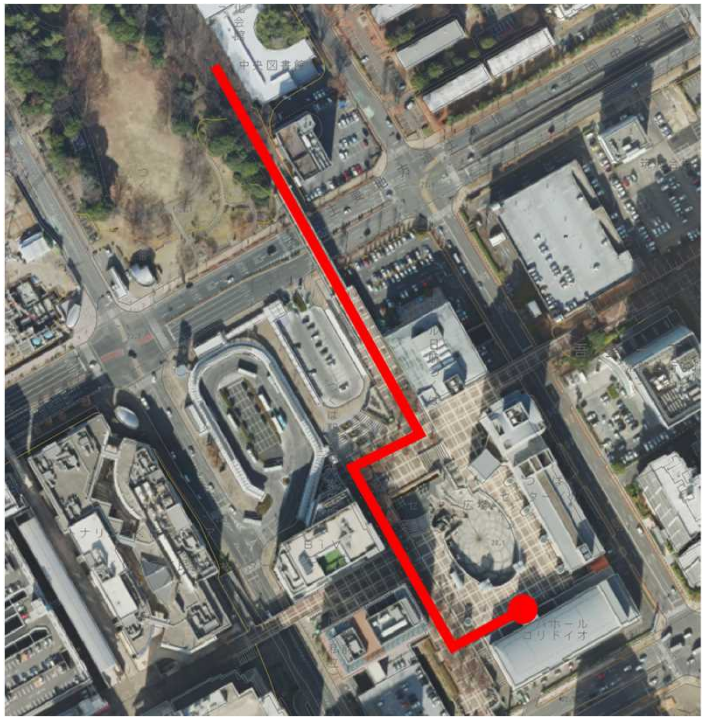
○フィールドワーク例

田園地区（南）



【ルート】
茎崎第二小学校駐車場
⇒小学校プール前道路を北方面へ
⇒茎崎運動公園野球場の沿道へ
⇒健康遊具広場を周回
⇒野球場沿道
⇒茎崎二小体育館

学園地区



【ルート】
センター広場
⇒ペデストリアンデッキ
⇒中央公園
⇒折り返し

ＴＸ沿線地区



【ルート】
はなのき公園
⇒公共緑地
⇒スマ・エコシティつくば研究学園
⇒ブランデ前遊具広場
⇒テーダ松保存緑地
⇒ペデストリアンデッキ
⇒はなのき公園

会　議　録

会議の名称		第５回　第２次つくば市緑の基本計画策定委員会		
開催日時		令和８年(2026 年) ８月７日(金)開会 10：00　閉会 11：45		
開催場所		つくば市役所２階　203 会議室		
事務局（担当課）		建設部公園・施設課		
出席者	委員	野中委員（委員長）、藤井委員、藤田委員、宮本委員、常國委員、田中委員、三石委員、山田委員、栗田委員		
	事務局	栗原理事、山口課長、藤井係長、関川主任、柳田主事		
公開・非公開の別		□公開　□非公開　■一部公開	傍聴者数	３名
非公開の場合はその理由		議事「（１）計画書素案（第４章）について」において、つくば市情報公開条例第５条第５号に規定する不開示情報に係る事項について、審議を行うため。		
議題		会議次第のとおり		
会議録署名人			確定年月日	年　月　日
会議次第	１　開会 ２　報告 （１）市民ワークショップの開催結果報告について （２）計画書構成案について ３　議事 （１）　計画書素案（第４章）について ４　その他 ５　閉会			

１　開会

司会

委員の皆様にはお忙しい中、委員会に出席いただき、ありがとうございます。

まず初めに、委員の御退任がございましたので、ここで御報告いたします。市民委員の委員から諸般の事情により、退任したい旨の申し出があり、令和８年４月 30 日付で退任されました。

では、本日の委員出席数、及び会議の公開について、事務局から報告します。

事務局

本日の委員会は、委員数 12 名のうち、９名出席しております。要項第６条第３項の規定により、本日の会議が成立していることを御報告いたします。

司会

以降の進行については、設置要項に基づき、委員長に議長をお願いします。

２　報告

委員長

それでは、会議次第に基づき、進行します。

まず１点目「市民ワークショップの開催結果報告について」事務局から御説明をお願いします。

〔事務局説明〕

委員長

ただいまの事務局からの説明について、委員の皆様の方から御質問・御意見がありましたらお願いします。

委員

ワークショップを４か所で、エリアを変えて実施したことで、共通する要望とエリアごとの特性が浮かび上がり、大変意味のあるワークショップだったと

思います。

開催概要に参加人数が掲載されていますが、どのような地域にお住まいの方が参加されているか把握できたでしょうか。

例えば、会場の近くにお住まいの方がこのような意見を出されているのか、それとも、コリドイオやつくば市役所だと遠方から参加されている方もいるのかなと思ったので、お分かりでしたら、教えてください。

事務局

参加された方は、基本的にはその地区に住んでいらっしゃる方が多かったのですが、他地区からの参加者や、都内から最近転居された方など、居住期間が短い方もいました。

委員長

他よろしいでしょうか。

それでは、２点目「計画書構成案について」事務局から説明をお願いします。

〔事務局説明〕

委員長

御説明いただきました内容について、委員の方々から御質問、御意見等をお願いいたします。

委員

第２章のつくば市の緑の現況課題について、課題を機能別に見ていく点をもう少し詳しく説明いただけないでしょうか。

機能別の課題については、これまであまり詳細な分析が示されていなかったように思います。どのような機能別課題を分析されたのかをお願いします。

事務局

機能別については、第２回委員会時に参考資料２として、一度御提示をさせていただいております。

今回は、概略のみ御説明させていただきます。

景観形成機能は、地区ごとに緑が形成されてきた過程が違うことから、７つの機能の中では、地区別の違いが最も色濃く出ています。地区ごとに異なる地域資源や特性に応じて施策を展開する方向性で整理しています。

健康・福祉・子育て機能については、学園地区やＴＸ沿線地区を中心に都市公園等、緑のオープンスペースが充足していることを整理しました。一方、田園地区では、緑は豊かにあるものの、オープンスペースとしての活用は十分ではない部分もあると考えています。このため市全体として、緑の機能を活用できるような形にしていくという方向性で整理しています。

交流・にぎわい機能については、つくばセンター広場をはじめとした、様々な緑のオープンスペースがイベントの開催会場等として活用されていますので、引き続きこのような活用を進めるとともに、新たなイベント創出を図る方向性で整理しています。

ビジネスの維持・創出について、農地が耕作放棄地になっている理由は、借り手の不足や農地の条件が悪く耕作に適さない土地であることなどが要因となっているという第３次農業基本計画の農業者アンケートの結果を踏まえ、農地を農地として活用しながら保全する方策を検討することとしています。また、筑波山をはじめとする豊かな自然的観光資源の活用なども検討する方向性で整理しています。

生物多様性の保全については、筑波山などの自然環境や公園など、市内には様々な生物多様性に関わる重要な地域があることを踏まえ、緑をエコロジカルネットワークとして形成するなど、生物多様性保全に活用する観点が必要であるという整理をしています。

防災・減災の機能については、緑が持つ雨水貯留浸透機能や土砂災害防止機能の発揮などの観点が必要であると整理しています。

最後に、ゼロカーボンの機能については、緑が多い筑波山などに加え、市街

地の中でも、都市公園や街路樹がある部分では、地表面温度が低い傾向であるという分析結果を踏まえ、地球温暖化や暑熱の緩和適応策として、緑を活用していくということが重要な観点になると整理しています。

委員長

他、よろしいですか。ありがとうございました。

続きまして議事に移り、具体的な施策の内容について、委員の皆様の御意見を伺いたいと思います。この議事においては検討段階の情報を扱うことから、これらが確定したものと誤解されると、市民の間に混乱を生じさせるおそれがあるため、つくば市附属機関の会議及び懇談会等の公開に関する条例第４条第１号に基づき、以降の議事は非公開としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

委員長

御異議ありませんでしたので、以降の議事については非公開とします。

事務局

傍聴人の皆様は、御退出をお願いします。

３　議事

［以降非公開］

〈非公開部分の審議内容〉

・全体的な方針や個別具体的な施策について審議を行った。

４　その他

司会

委員の皆様におかれましては貴重な御意見をいただきまして、ありがとうございました。

次回の会議の開催は、９月中旬頃を予定しております。詳細が決まり次第、追って日程調整の御連絡をさせていただきますので、御協力のほどよろしくお

願いいたします。

以上をもちまして、第５回第２次つくば市緑の基本計画策定委員会を閉会いたします。貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。

５　閉会

第５回　第２次つくば市緑の基本計画策定委員会

次　　第

日　時　　令和８年（2026 年）８月７日（金）10 時から
場　所　　つくば市役所　２階　203 会議室

１　開　　会

２　報　　告

（１）　市民ワークショップの開催結果報告について　　・・・・・資料１

（２）　計画書構成案について　　・・・・・資料２

３　議　　事

（１）　計画書素案（第４章）について　　・・・・・資料３・４・５

４　そ の 他

５　閉　　会

配布資料

次第
【資料１】市民ワークショップの開催概要及び意見集計
【資料２】計画書構成案
【資料３】施策体系図
【資料４】計画書素案（第４章抜粋）
【資料５】事業一覧表

市民ワークショップの開催概要及び意見集計

資料１

○開催概要

	日時	会場	テーマ	人数
学園地区	令和８年５月24日	コリドイオ	森のまち、アップデート中！ ～みんなで考える森のカタチ～	９人
田園地区（北）	令和８年５月24日	ウェルネスパーク	つくばグリーン・ラボ！ ～まちに最高の緑を！～	11人
田園地区（南）	令和８年５月31日	茎崎第二小学校	つくば・グリーン・シェア ～つなごう！緑の未来へ～	９人
TX沿線地区	令和８年５月31日	つくば市役所	つくば・グリーン・ビジョン ～未来の森をデザインする～	６人

○意見要旨（開催順）

学園地区

【学園地区における「つくばらしさ」】
○学園都市を象徴する都市型の緑　○暮らしを支え、人が集う緑　○日常を支える緑の多様化
【学園地区における市民が感じる課題】
○緑の更新　○維持管理　○開発との調和
【学園地区における市民の期待】
○緑を身近に感じ、楽しむ活動　○地域で支え合う活動
○市民参加を支える仕組みづくり　○保全、活用の推進　○緑への理解促進

田園地区（北）

【田園地区（北）における「つくばらしさ」】
○安全・安心に暮らせる緑　○自然に親しみ、学び、育む緑
【田園地区（北）における市民が感じる課題】
○安全・安心を支える緑の管理　○自然との共生　○持続可能な維持管理
【田園地区（北）における市民の期待】
○緑に親しみ、楽しむ活動　○地域で支える活動　○子供の学びや交流につながる活動
○市民活動を支える仕組みづくり　○公園、緑地の充実　○学びの機会づくり

田園地区（南）

【田園地区（南）における「つくばらしさ」】
○人が集い、地域をつなぐ緑　○自然に親しみ、学び、育む緑　○地域で育み、未来へ受け継ぐ緑
【田園地区（南）における市民が感じる課題】
○維持管理の担い手不足　○里山・農地の荒廃　○安全性や快適性、相談体制の改善
【田園地区（南）における市民の期待】
○身近な緑を育み、守る活動　○自然に親しみ、学ぶ活動　○地域資源を活かす取組み
○里山の保全、活用への支援　○協働を進める仕組みづくり　○緑と触れ合う機会づくり

TX沿線地区

【TX沿線地区における「つくばらしさ」】
○人が集い、地域を育む緑　○自然を楽しみ、体験できる緑　○自然と共生する持続可能な緑
【TX沿線地区における市民が感じる課題】
○維持管理　○都市と自然のバランス　○居場所不足
【TX沿線地区における市民の期待】
○緑に親しみ、活用する活動　○緑を通じた交流、学び
○緑に親しめる環境づくり　○市民活動を支える仕組みづくり　○緑への理解と参加促進

○まとめ

４地区WSを通して見えたこと

４地区のワークショップを通じて、市民は「緑そのもの」の話ではなく、「緑を通じて実現したい暮らしや地域の姿」についての話を重視していることが分かった。その結果、緑の活用、多様な主体の参画、地域特性を活かした取組、持続可能な維持管理という４つの視点が共通の方向性として整理された。

【緑は暮らしを支える地域資源】
○市民の暮らしを支える多様な役割　○地域への愛着　○人と人とのつながり
【多様な主体による緑づくりへの期待】
○多様な主体が役割を分担　○市民活動を支える仕組み　○情報発信、環境教育等の必要性
【地域特性を活かした緑づくり】
○学園都市、田園地区、TX沿線地区の地域特性　○それぞれの「地域らしさ」を活かした緑づくり
【持続可能な維持管理の必要性】
○安全性や景観への配慮　○担い手の確保　○多様な主体との協働

○意見への対応方針

４地区WSから見えた市民の期待	対応方針
【緑を守るだけでなく、活かすことへの期待】 ○緑の多様な活用への期待 ・自然体験　・環境教育　・交流　・癒し ・健康づくり　・イベント　・子供の遊び	【緑を守るだけなく、活かす緑づくり】 緑が持つ多様な機能や価値を活かし、自然体験や健康づくり、交流など市民の暮らしや地域の魅力の向上につながる緑づくりを推進。
【多様な主体が緑にかかわることへの期待】 ○それぞれの立場で緑に関わる ・行政、市民、学校、企業、地域団体 ボランティアなど多様な団体 ○市民参加を支える仕組み ・行政の役割　・多様な主体	【多様な主体による緑づくり】 市民参加や協働を促進するとともに、多様な主体がそれぞれの役割を担いながら、環境教育や情報発信などを通じて、緑に関わる人材の育成や活動の広がりを図る。
【地域特性を活かした緑づくりへの期待】 ○地域特性を活かした緑の保全・活用 ・学園都市らしい都市景観や計画的な緑の継承 ・自然との触れ合いや安全・安心 ・森林、里山の保全・活用と地域づくり ・地域資源を通じた交流や新たなコミュニティ形成	【地域特性を活かした緑づくり】 地域ごとの自然環境や土地利用、歴史・文化などの特性を踏まえ、それぞれの地域らしさを活かした緑づくりを進める。
【持続可能な維持管理・更新への期待】 ○適切な管理や更新の必要性 ・安全性への配慮　・適切な樹木管理 ・生物多様性の保全　・外来種対策 ・樹木の更新　・手をかけすぎない管理	【持続可能な維持管理・更新】 安全性や景観、生物多様性などに配慮しながら、持続可能な維持管理を推進するとともに、多様な主体との協働による管理手法の構築を進める。

計画書構成案

資料２

○新計画素案の構成

第１章　緑の基本計画について

○緑の基本計画とは
・緑の基本計画とは　・緑の基本計画の意義　・対象とする緑
・緑の７つの機能　・計画の位置づけ　・計画期間
・計画の対象区域　・計画の推進主体

○計画改定の背景

第２章　つくば市を取り巻く緑の動向と現況課題

○緑を取り巻く動向と展望
・社会情勢の変化に伴う国際的な動向と国・県の方向性
・本市の緑に求められる新たな視点

○つくば市の概況
・つくば市の位置　・つくば市の成り立ち
・自然条件からの現況　・社会条件からの現況

○つくば市の緑の現況・課題
・特徴的なつくば市の緑　・緑被　・公園・緑地の現況
・地区別の緑の特徴　・緑の関する市民意向
・計画の進捗

○緑の機能別による現況課題のとりまとめ

第３章　緑の将来像と目標

○策定の方向性
・策定の方向性　・緑の将来像の実現に向けた施策展開

○緑の将来像

○緑の基本方針

○緑の配置方針

○緑の目標

第４章　将来像の実現に向けた取組み

○施策体系

○機能別施策

○共通施策

○都市公園の整備及び管理の方針

第５章　地区別計画

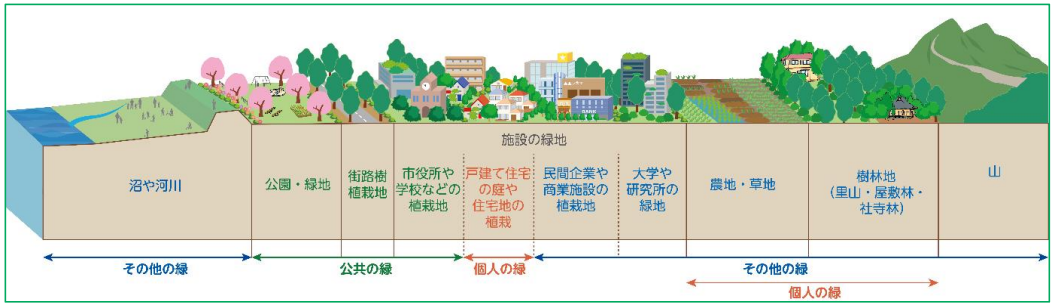
○各地区の現況課題・方針・施策

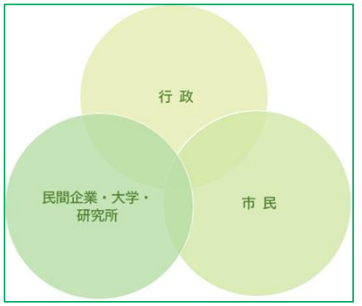
第６章　計画実現に向けて

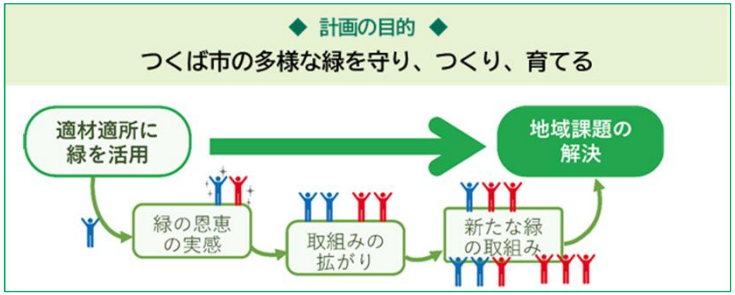
○推進体制

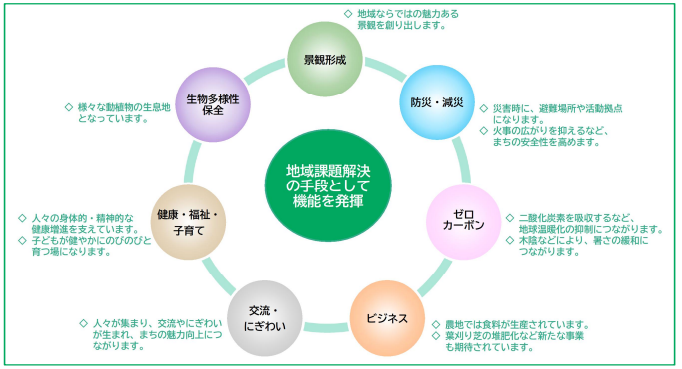
○計画の推進に向けて

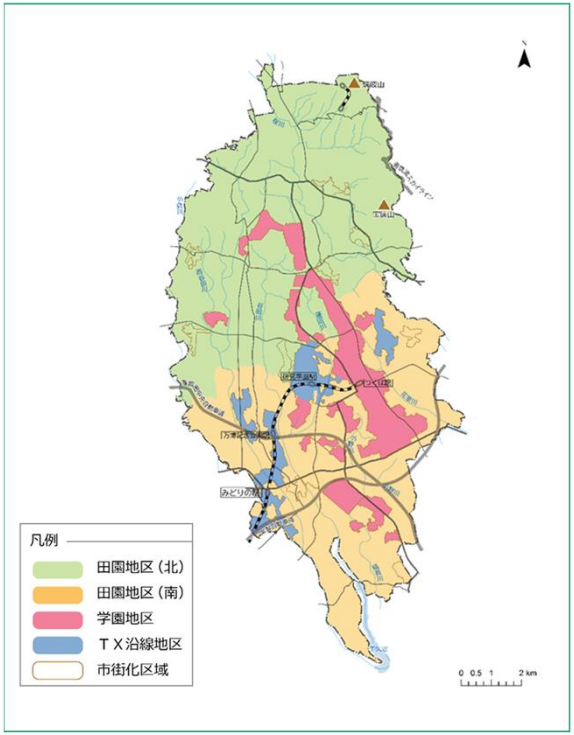
巻末資料

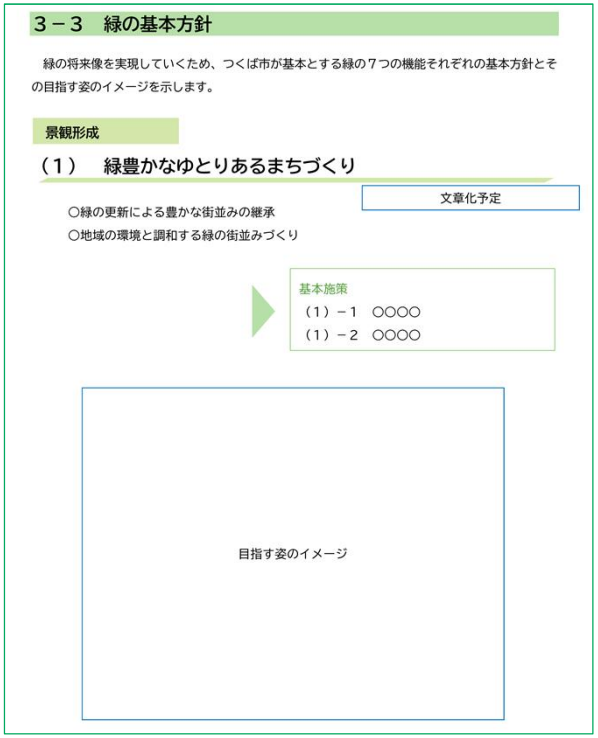












会　議　録

会議の名称		第６回　第２次つくば市緑の基本計画策定委員会		
開催日時		令和８年(2026 年)10 月９日(金)開会 10：00　閉会 11：55		
開催場所		つくば市役所２階　203 会議室		
事務局（担当課）		建設部公園・施設課		
出席者	委員	野中委員（委員長）、栗田委員、藤田委員、宮本委員、和穎委員、坂口委員、常國委員、三石委員、山田委員		
	事務局	塚田次長、山口課長、林課長補佐、藤井係長、関川主任、柳田主事		
公開・非公開の別		□公開　■非公開　□一部公開	傍聴者数	
非公開の場合はその理由		つくば市情報公開条例(平成 27 年つくば市条例第 27 号)第５条第５号に規定する不開示情報を扱うため。		
議題		（１）計画書素案の全体構成について （２）素案第１・２・３章について （３）素案第４章について （４）目標水準（ＫＰＩ）の設定について （５）素案第５・６章について		
会議録署名人			確定年月日	
会議次第		１　開会 ２　議事 ３　その他 ４　閉会		

＜審議内容＞

・第２次つくば市緑の基本計画の計画書素案について、具体的な記述等詳細な内容を審議した。

第６回　第２次つくば市緑の基本計画策定委員会

次　　第

日　時　　令和８年（2026 年）10 月９日（金）10 時から
場　所　　つくば市役所　２階　203 会議室

１　開　　会

２　議　　事

（１）　計画書素案の全体構成について　　・・・・・資料１

（２）　素案第１・２・３章について　　・・・・・資料１

（３）　素案第４章について　　・・・・・資料１

（４）　目標水準（ＫＰＩ）の設定について　　・・・・・資料１・２

（５）　素案第５・６章について　　・・・・・資料１

３　そ の 他

４　閉　　会

配布資料

次第
【資料１】計画書素案
【資料２】目標水準（ＫＰＩ）の設定について
【参考資料１】第５回　第２次つくば市緑の基本計画策定委員会　意見対応一覧表